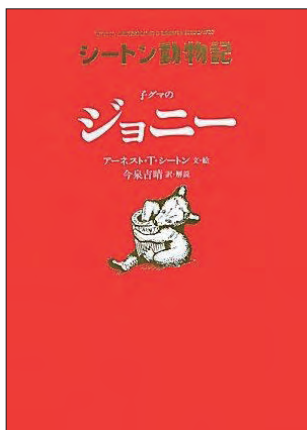


## 子ぐまのジョニー

アーネスト・T・シートン 作・絵 今泉 吉晴 訳  
 童心社 2010年(白楊社 1937)《カナダ 1900》 175p



ジョニーは母グマのグランピーと一緒にイエローストーン国立公園の森で暮らしている可愛らしいがちょっと病気がちの子グマです。

それもそのはず、国立公園の中にあるファウンテン・ホテルから出る豊富ではあるが栄養の偏った食べ物ばかりを食べていたからです。

野生動物の暮らしを守っているはずの国立公園が、人間の贅沢な食べ物の残りをクマに与え、“野性”を奪って自立できなくさせていたのです。

母グマのグランピーは大きくて強いクマでしたが、最大で最強のグリズリーが現れた時には命からがら逃げるしかありませんでした。野生の力を身につけていないジョニーは母グマの保護がなければ生きていけません。ところが、大きな母ネコにも負けてしまったグランピーは、ジョニーを置き去りにして消えてしまったのです。ジョニーは人間の手で保護されました。が…。

作者が大学でジョニーの話をした折、学生たちはニューヨークの玩具店ミクトンに、ジョニーをかたどったぬいぐるみを作ってもらいました。1902年に大統領セオドア・ルーズベルト(愛称 テディ)が足の悪い子グマを助けたという話を耳にしたミクトンは、ぬいぐるみを「テディベアー」と名付けたそうです。

## ドリトル先生アフリカゆき

ヒュー・ロフティング 作・挿絵 井伏 鱒二 訳  
 岩波少年文庫 2000年(白林少年館 1941)《イギリス 1920》 252p



昔、昔、イギリスの「沼のほとりのパドルビー」という小さな町に、ジョン・ドリトルというお医者さまが住んでいました。町の人はもちろんのこと、そこに棲んでいる動物たちもドリトル先生のことをよく知っています。先生は動物が大好きでしたから。アヒルのダブダブ、犬のジップ、子ブタのガブガブ、オウムのポリネシア、フクロのトートーを、先生は特に可愛がっていました。

近所のネコが、先生に獣医になるようお願いしたので、オウムのポリネシアから動物語を習うことにし、動物たちとも話ができるようになりました。

大変寒い冬の日、サルのチーチーが先生のところへ飛び込んできました。いとこの棲んでいるアフリカでは疫病が流行り、仲間のサルが何百匹も東になって死んでいるというのです。先生はお供を連れてアフリカに行くことにしました。

『…航海記』『…の郵便局』『…のサーカス』『…の動物園』『…のキャラバン』『…と月からの使い』『…月へゆく』『…月から帰る』『…と秘密の湖』『…と緑のカナリア』『…の楽しい家』(岩波少年文庫)へと続きます。『ドリトル先生航海記』で1923年にアメリカの児童文学最優秀賞のニューベリー賞を受賞しました。

## 点子ちゃんとアントン

エーリヒ・ケストナー 作 高橋 健二 訳 ワルター・トリヤー 挿絵  
岩波書店1962年・岩波少年文庫2000年《ドイツ 1931》 179p



ベルリンに暮らすルイーゼ・ポッグは、点子というあだ名で呼ばれている金持ちの家の女の子です。点子という名前は点のような小さな愛らしい子という意味です。父親はステッキの会社を経営していていつも忙しく、母親は毎日のようにパーティや観劇で遊び歩いていて家庭のことは顧みません。

点子には、アントン・ガストという男の子の友だちがいます。アントンは、病気でほとんど寝たきりの母親との二人暮らしで、家事の一切を彼がやっていて、さらに家計を支えるためにこっそり靴ひも売りまでやっているのです。

点子は、アントンが学校を休みがちなため成績が芳しくないことを知り、内緒でアントンの学校へ行き、担任の先生に彼の家庭における状況を説明し、分かってもらいます。またアントンの機転で、点子の家が泥棒の被害に遭わずに済みます。

この2人の友情を軸に、その家族模様が描かれていますが、著者特有のユーモアに富んだ温かい眼差しを感じながら、物語の終わりを迎えます。

『エーミールと探偵たち』『ふたりのロッセ』『飛ぶ教室』等は、ケストナーらしさが溢れている作品です。1960年国際アンデルセン大賞を受賞しています。

## 人形の家

ルーマー・ゴッデン 作 瀬田 貞二 訳 堀内 誠一 絵  
岩波少年文庫 2000年(岩波書店 1967)《イギリス 1947》 260p



エミリーとシャーロットの姉妹は4人と1ぴきの人形を持っています。人形は自分の力では動くことはできません。人形は「願う」ことで人間と心を通じ合わせるのです。4人と1ぴきの人形は家が欲しいと思いました。強く願うことにより家は手に入りました。姉妹のひいおばあさんの持ち物だった家です。

次に家具が欲しいと思い、その願いも姉妹に通じました。姉妹のおばあさんが古い家具を直してくれ、さらに、トチーと名付けられた古くて小さなオランダ人形を展覧会に出そうとも言ってくれました。ところが、展覧会場で、昔、同じ家に住んでいたマーチペンという美しいが傲慢な人形と出会ってしまいます。見学に来た女王はトチーを大層気に入りしました。マーチペンはトチーを恨みます。展覧会后、いろいろなことがあって、マーチペンはトチーの家に来ることになってしまいます。エミリーはこの美しい人形に魅せられ、4人の人形をマーチペンの召使にしまいます。そこで、事件が起きるのです。

人形は、ただ単なるものでしょうか、それとも、こころを持ったものでしょうか。美しいとは、正しいとは、真実とはどういうものなのでしょう。人間の根本の問題をつきつけられ、考えさせられます。

## グリックの冒険

斎藤 惇夫 作 藪内 正幸 画

岩波書店 1982年(1970) 348p



シマリスのグリックは姉のフラックと籠の中で飼われていました。1日に1時間だけ運動のため籠から出してもらえますが、家人の留守の時、そっと外に出ました。鳩のピッポーからグリックの家はここではないことを教えられます。

姉の強い勧めと、強い憧れで北の森めがけて出発しました。見たこともない車や光で恐れを覚えましたが、偶然にもドブネズミのガンバを助けたのです。ガンバは自分の用事がすんだら、必ず北の森へ連れて行くからとグリックに約束しました。そして、クマネズミとの戦いの後、君の戦いはこれではない、君自身の戦いをしなさい、と言って、森の近くまで連れて行ってくれました。ガンバの知っている北の森は、動物園のシマリスの檻の中だったのです。

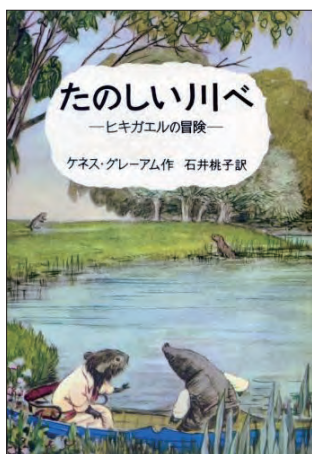
グリックはこの檻を脱出しますが、雌ののんのんもついて来てしまいます。足を痛めているのんのんをかばい、ノスリなどとも戦いながら雪の積もる北の森へと辿り着きます。何と、そこにはピッポーの姿があったのです。

この作品で、児童文学者協会賞を受賞し、『冒険者たち—ガンバと15ひきの仲間』で国連の国際児童年(1979年)特別アンデルセン賞優良作品に選ばれ、『ガンバとカワウソの冒険』で野間児童文芸賞を受賞しました。

## たのしい川べーヒキガエルの冒険ー

ケネス・グレアム 作 石井 桃子 訳 E・H・シェパード 絵 347p

岩波書店1963年・岩波少年文庫2002(白林少年館1940)《イギリス1908》



川べりに住む、言葉話す小動物たちの物語です。副題が「ヒキガエルの冒険」となっていますが、主人公は、おっとりやのモグラとお人好しで気の利く川ネズミだと思えます。

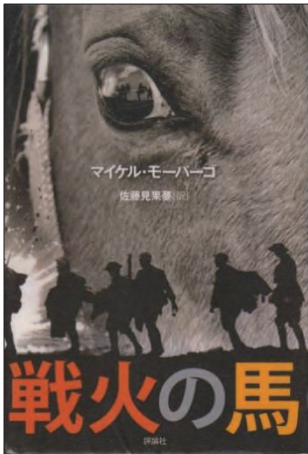
このふたりと良識ある賢者アナグマが加わって物語は展開していきますが、動物たちや植物群そして自然そのものの形容が、何とも擬人的でユーモラスな表現により描写されていて、この本の大きな魅力となっています。

しかし、のどかな田園風景も、ヒキガエルの登場によって状況は一変します。高級自動車を盗んで牢獄に入れられ、洗濯ばあさんに変装して脱獄し、言葉巧みに曳き舟のおかみさんの馬を奪ってジブシーに売りつけてしまうといったように、やりたい放題の悪さをしでかします。高慢ちきでうぬぼれやで想像力たくましく、でも「あんな気のいい動物はいないさ。とても罪がなくてお人好しで、気持ちがやさしいんだ」とネズミに言わせるほどのキャラクターとして描かれています。ところが、ヒキガエルが冒険(?)の留守中に、ヒキガエル御殿は、森の動物たちに乗っ取られていて…。

著者が、息子を喜ばせようと作られたものだけに、愉快さ満載です。

## 戦火の馬

マイケル・モーパール 作 佐藤 見果夢 訳  
評論社 2012年《イギリス 1982》 208p



私はサラブレッドの血が半分混じる子馬ジョーイです。農場に買い取られ、少年アルバートと穏やかな日を送っていました。イズリーで最高の名馬だということでイギリス軍に買い取られ、そこでニコルズ大尉が乗馬し、私は初めて戦場に行きました。

ニコルズ大尉は私を大切に扱ってくれましたが、敵陣に突っ込んで行った時、大尉の姿は私の背の上から消えてしまっていたのです。後ろから軍馬が次々と押し寄せるので、私は走りに走り続け、逃げおおせました。

その後、農耕馬として平和な時もありましたが、又もや戦争にかり出され、鉄条網に引っ掛かり大けがをしました。助け出された私を寝ずに看病してくれたのは、忘れもしないあの懐かしい人でした。少年兵になっていたのです。

作者は第二次大戦の最中に生まれ、戦争には深い関心を持っていました。戦中の馬の働きと悲惨な最期を、若者に伝えるために本書は書かれました。

本作品は舞台化され2007年からロンドンで上演されています。生きた馬のように操る工夫が話題となり、第56回トニー賞で五部門も受賞しました。

2012年12月にはスティーヴン・スピルバーグ監督により映画化されました。

## 赤毛のアン

L・M・モンゴメリ 作 村岡 花子 訳  
新潮文庫 2008年(三笠書房 1952)《カナダ 1908》 529p



プリンスエドワード島の、小さな村のグリーン・ゲイブルズに住んでいる、マッシュウとマリラの兄妹は、農業の手伝いをさせるために孤児院から男の子を買い受けることにしました。が、どう間違ったのかアン＝シャーリーという赤毛でやせっぽちの女の子がやってきてしまいました。

アンは、引き取ってもらうために、マッシュウとマリラに懸命に訴えます。おしゃべりなアンのおしゃべりな様子を見て、兄妹は引き取ることを決めました。

アンのおしゃべりな行動はマリラを悩ませましたが、それ故に、ダイアナという腹心の友を得ることもできました。ダイアナの妹ミニー・メイが急病になった時、アンは経験と機転でその命を救うこともしました。

マッシュウはアンを進学を優しく応援してくれ、アンのおしゃべりな夢はかなって進学することができました。兄妹二人に包まれてアンはのびのびと成長していきます。

カナダにあるプリンスエドワード島の美しさは言葉に表せないほどです。島の人の人にとって、モンゴメリは身近な存在であり、誇れる作家でもあります。

『アンのおしゃべり』『アンのおしゃべり』『アンのおしゃべり』『アンのおしゃべり』『アンのおしゃべり』『アンのおしゃべり』『アンのおしゃべり』『アンのおしゃべり』『アンのおしゃべり』『アンのおしゃべり』(新潮文庫)へと続きます。

## 大きな森の小さな家

ローラ・インガルス・ワイルダー 作 恩地 三保子 訳 ガー・ス・ウリアム 画  
福音館書店 1972年(講談社 1962)《アメリカ 1932》 256p



ローラは父さんと母さんと姉のメアリイと妹のキャリー、忠犬ジャックと共に、ウィスコンシン州の大きな森にある丸太小屋に住んでいました。

家の周りは木々ばかり、近くにいるのは野生の動物ばかりで、オオカミやクマは家の近くまできます。怖いこともあります、ジャックと父さんがいてくれれば安心です。丸太小屋は父さんが一人で作り上げたもので、食べ物も父さんが狩りをして手に入れ、開墾地で作物も育てます。母さんはそれらを料理します。今から百年以上も前の生活は自給自足が当たり前でした。

春になり、家族みんなで馬車に乗って町まで出かけました。こんなに多くの建物があるのをローラは初めて目にしたので…。

大自然と共に成長していくローラの姿が、生き生きと描かれています。

この物語はローラ・インガルス・ワイルダーの体験を綴った大河物語とも言えます。『大草原の小さな家』『プラム・クリークの土手で』『シルバー・レイクの岸辺で』『農場の少年』『長い冬』『大草原の小さな町』『この楽しい日々』『はじめての四年間』『わが家への道』へと続きます。

1954年「ローラ・インガルス・ワイルダー賞」が創設されました。

## 銀のほのおの国

神沢 利子 著 堀内 誠一 画  
福音館文庫 2003年(福音館書店「母の友」1968~1970) 384p



春休みの留守番中、たかしとゆうこは洋間に飾られている剥製のトナカイをぼんやりと見つめていました。このトナカイは呪いをかけられているかもしれないというゆうこの言葉に従って、たかしは呪いを解く呪文を唱えました。

2人は、呪いが解けたトナカイに引っ張られトナカイの国に行き着きましたが、トナカイはどこかに走り去ってしまいました。「茶袋」と名のるウサギに出会い、そのトナカイは、**はやて**という首領であり、青イヌ(オオカミ)の企みにより呪いをかけられた、ということを知ります。**はやて**に会うため、たかしとゆうこは北に向かいます。そこで、瀕死のライチョウを見つけ、たかしは、ゆうこが寝ている間に、死んだライチョウを料理してしまいます。それを知ったゆうこは、たかしも青イヌと同じ、と言って出ていってしまいます。

青イヌに捕えられたゆうこは青イヌの呪縛にかかり、身動きができません。たかしは一人では**はやて**のところに行き、**はやて**と共に戦います。巨人がゆうこを助けて、たかしのところへやってきました。トナカイ国は勝利します。

「人はなぜ、他の生き物の命を奪わなければ生きていけないのか。」という重大なテーマを背負ったファンタジーです。1995年巖谷小波賞を受賞しました。

## ギリシア神話

石井 桃子 編・訳 富山 妙子 画

のら書店 2000年(あかね書房 1958)《イギリス・アメリカ 1905》342p



「パンドラの箱」「トロイア戦争」という話や“ゼウス、ポセイドン(ネプチューン)、ハデス(ブルトン)、トリトン、ヘラクレス”という名前を聞いたことがありませんか。これらは全てギリシア神話に出てくる人々や話です。

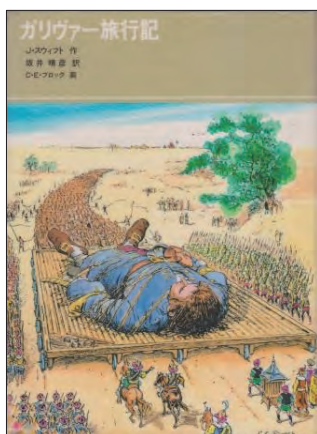
ギリシア神話は何千年という昔に古代ギリシアの人たちによって創られ語りつがれてきたものです。ゼウスは人間世界と神の世界を司る神であり、ポセイドンは海の神、ハデスは地下世界の神です。この神々によって世界は治められていました。ゼウスは高等な動物として人間を造りましたが、最初の女性がパンドラです。そのパンドラが、開けてはいけないと言われている瓶のふたを開けてしまったために、世の中にたくさんの禍(わざ)いが飛び出してきたという話は、“この世にどうして苦しみ(くるしみ)がやってきたか”というところに書かれています。“クジャクはなぜ、尾羽根に目をもっているか”は「ヘルメスとアルゴス」という話に、“王さまの耳はロバの耳”は「ミダス王」の話の中に出ています。

本書は「みんなの好きなギリシア神話」(リリアン・S・ハイド著 イギリス)と「トロイア戦争」「オデュッセウスのぼうけん」(アルフレッド・チャーチ著 アメリカ)の3冊の本をもとに石井桃子が編集したものです。

## ガリヴァー旅行記

J・スウィフト 作 坂井 晴彦 訳 チャールズ・イヴモンド・ブロック 画

福音館書店 1988年(富山房 1921)《イギリス 1726》608p



冒険好きのガリヴァーは航海に出ましたが、船は難破し、気がついた時には体は縄でしっかり結び付けられていました。そこは身の丈が15センチほどの小さな人の住む小人国だったので、向かうところ敵なしの活躍をします。ここでは、ガリヴァーは小人に対して優越感と自己満足を感じました。

次の航海で流れ着いたところは大人国でした。ガリヴァーは大きなハチやネズミに襲われ逃げ惑い、巨人たちに囲まれ小人同然に扱われました。無力な存在となったガリヴァーは人間の弱さ小ささを思い知らされます。

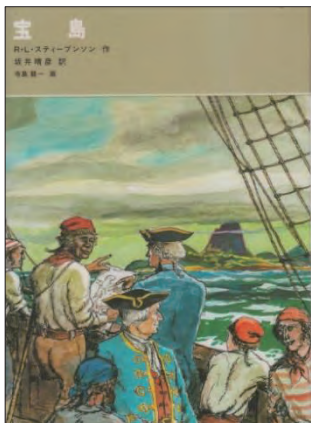
次の航海では空中に浮かぶ島「飛び島」に連れていかれます。ここには現実離れた理論に熱中する学者や衰えながらも死ねずにいるみじめな老人たちがいました。人間の愚かさ醜(みにく)さを見せつけられる思いでした。

最後の航海では馬の支配する国に迷い込み、高潔な馬の主人に仕えることになりました。馬の形をとりながらも理性を備えて理想的な生き方をしているフウイヌムと人間そっくりのけだものであるヤファーに出会い、自分もヤファーの同類であると思い込んで絶望のどん底に落とされるガリヴァーでした。

どの篇も風刺が効いていて、最初は大人向けに出版されたものでした。

## 宝 島

R・L・スティーブソン 作 坂井 晴彦 訳 寺島 龍一 画  
福音館書店 1976年(新潮社 1914)《イギリス 1883》 460p



ジム・ホーキンス少年は、郷土であるジョン・トリローニさんや医者のリヴシー先生と一緒に、フリント船長が埋めたといわれる莫大な財産をさがしに出帆しました。

船のコックとして乗り込んでいた一本足の海賊、ロング・ジョン・シルバーが恐ろしい陰謀を企てているのをジムはりんご樽の中で聞いてしまいました。

信用できるスモレット船長と郷土のトリローニさんとリヴシー先生の三人だけにはこの話を伝えました。しかし、この時すでにシルバーは仲間を集め、船長の言うことさえ聞かなくなっていたのです。

ジムは上陸し岩に適している場所を見つけました。そこへ、何とかして仲間たちもやってきました。いよいよシルバーたちとの戦いが始まります。

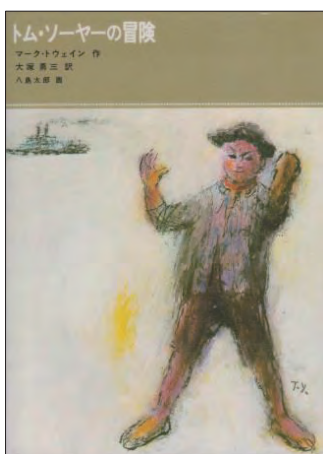
しかし、ジムがいない間に丸太小屋は海賊のものとなっていて、仲間の姿もありません。ジムもシルバーの手下にされそうになりました。

ジムはフリント船長が埋めたといわれる莫大な財宝を手に入れるため、必死にシルバーと戦います。そして、とうとう…。

他に『ジキル博士とハイド氏』(岩波文庫)などがあります。

## トム・ソーヤーの冒険

マーク・トウェイン 作 大塚 勇三 訳 八島 太郎 画  
福音館書店 1975年(精華書院 1919)《アメリカ 1876》 416p



トム(トーマス)・ソーヤーは手におえないほどの腕白坊主です。養い親のポリー伯母さんは優しく物分りのいい人ですが、我慢出来ない時もあります。

トムは宿無しハックル・ベリー・フィンと出会い、真夜中の墓地に出かけ、そこで、インジャン・ジョーが人を殺し、罪をマフ・ポッターになすりつけている現場を見てしまいました。トムとハックは絶対に他言しないことを約束します。

殺人現場が発見され、マフが犯人として捕まってしまいました。トムは約束を破り、公判廷の前日、被告の弁護士に本当のことを話したのです。公判廷の日、マフは釈放されましたが、インジャン・ジョーはその場から逃げ去りました。

インジャン・ジョーの目を恐れながらも、トムとハックは宝探しをしました。何と、インジャン・ジョーが仲間と共に宝を隠す所を見てしまったのです。

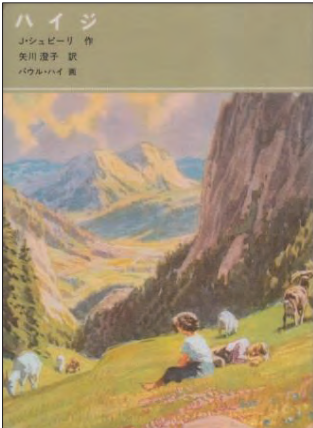
トムは恋人のベッキーたちとキャンプに行き、洞穴探検をしますが、トムとベッキーは洞穴で迷子になり、そこで、又もやインジャン・ジョーと出会うことに。

助けられたトムはハックと共に金貨を見つけ、町中の話題をさらいます。

作者は「この冒険の殆んどは私や友だちに実際に起こったことです。ハックは実在の人物で、トムは友人3人を合わせたものです。」と述べています。

## ハイジ

ヨハンナ・シュピーリ 作 矢川 澄子 訳 パウル・ハイ 画  
福音館書店 1974年(岩波少年文庫 1952)《スイス 1880》 516p



デーテ叔母さんに育てられていたハイジ(アーデルハイド)は叔母さんの都合でアルムの山に住むおじいさんのもとに預けられました。

周りの人にほほえみや喜びを与えられる無邪気で素直な性格のハイジは、頑固者のおじいさんの心を和らげ、羊飼いのペーターやその家族、そして、動物たちともすぐに仲良しになりました。

フランクフルトのゼーゼマンさんのお嬢さんが、話し相手を欲しがっていると聞いたデーテ叔母さんは、ハイジを引き取りにやってきました。おじいさんは反対しましたが、ハイジはすぐに帰れるという言葉を信じてしまいました。

クララとはすぐに仲良くなれましたが、家政婦のロッテンマイヤーさんは、ハイジの言動に一つ一つ難癖をつけます。フランクフルトは大会なので山も自然もありません。とうとうハイジは病気になってしまったのです。

やがて、山に戻ったハイジは健康を取り戻します。そんな時に、クララがやって来ました。足の悪いクララは懸命に歩こうとしますが…。

ハイジは他人が苦しんだり悲しんだりしているのを黙って見ていられない性分です。作者もそのような資質の持ち主だったようです。

## ピーター・パンとウェンディ

J・M・バリ 作 石井 桃子 訳 F・D・ベッドフォード 画  
福音館書店 1972年(三笠書房 1951)《イギリス 1911》 336p



ピーター・パンは決して大人になりたがらない永遠の少年です。ウェンディ、ジョン、マイケルの姉弟はピーター・パンと妖精ティンカー・ベルに導かれて、星の輝く夜空へ飛び出し、ネヴァーランド(どこにもない国)へ行きました。

ネヴァーランドには6人の子どもたちがいました。その上、海賊たちもいたのです。海賊の首領の名はジェームズ・フックです。片腕はピーター・パンに切り落とされ鉄のカギをつけています。フックはピーター・パンを憎んでいます。

子どもたちが海賊にさらわれてしまいました。ピーター・パンは海賊船にこっそり乗り込み、子どもたちの助けを借りてフックを倒しました。

子どもたちはそれぞれの家に帰り、そして、春の大掃除の日だけは、ネヴァーランドに行ってもいいという親たちの許しが出て、安心するのです。

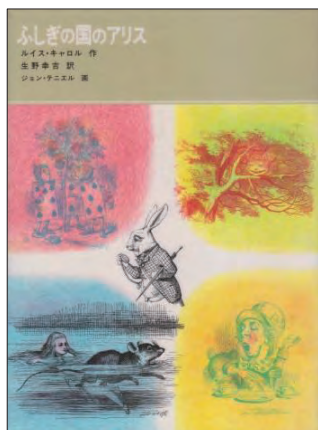
子どもたちの心の中にはピーター・パンが住んでいます。子どもたちの心の地図をよく見てみると、そこにはネヴァーランドがあるのです。大人になってしまうとその心の地図やピーター・パンは消えてしまうのです。

劇「ピーター・パン——大人にならない少年」は、1904年12月ロンドンの劇場で上演され大好評を得ました。何度も書き直されたのが本書です。



## ふしぎの国のアリス

ルイス・キャロル 作 生野 幸吉 訳 ジョン・テニエル 画  
福音館書店 1971年(角川書店 1952)《イギリス 1865》 208p



アリスは川の堤の上で座っていると、チョッキを着た白ウサギが懐中時計を見ながら、遅れてしまう！と言いながらかけていくのを見てしまいました。

ウサギの後を追ってウサギ穴に入ってみると、そこは何とも不思議な世界でした。ネズミ穴よりちょっと大きめの通路がありますが、アリスは通ることができません。「わたしをお飲み」と書いてある瓶の中身を飲むとアリスの体は小さくなりました。小さくなったり大きくなったり不思議なことはばかりです。

三月ウサギの終わらないお茶会、気の変な帽子屋、にやにや笑いばかりで出沒自在のチェシャ・ネコ、すぐに「死刑にせよ！」と叫ぶのですが一度も死刑にしないトランプの女王さま、嘆いてばかりいる偽海亀たちが出てきます。

ナンセンスそのものなのに、ふと現実を見てしまう場面もあります。さらに、うさぎの懐中時計を見てウサギ穴に飛び込んだのに、その世界では時間も空間もこの世の法則とは全く異なっていたのです。

このお話は、1862年7月4日、作者が友人と一緒に、学寮長のリデル先生の3人の娘を連れて、テムズ川でボート遊びをしたのがきっかけで作られました。末っ子のアリス・プレザンス・リデルが主人公のモデルだったようです。

## 魔女の宅急便

角野 栄子 作 林 明子 画  
福音館文庫 2002年・福音館書店 1985年 272p



キキのお父さんは普通の人、お母さんは魔女です。キキは10歳の時、魔女になると決めました。魔女になるためには、13歳になったら魔女の住んでいない知らない町で1年間見習いをしなければなりません。キキが使える魔法はほうきに乗って空を飛ぶことだけですが、一緒に育った黒猫のジジとは話ができます。

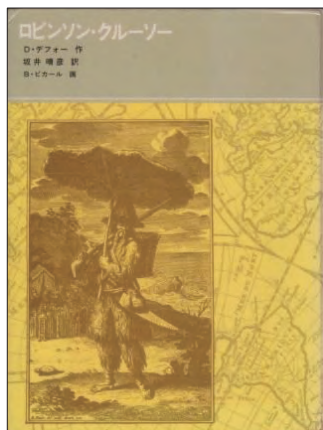
見習い修行に旅立ったキキとジジは海辺の大きな町コリコに着き、親切なパン屋さん夫婦に助けられながら宅急便屋として自立します。とんぼさんという生涯を共にすることになる友だちもできました。運びいろいろなものの中に、それぞれの心が込められていることに気づいていくキキでした。

1年経って里帰りのキキは、お母さんのもとの暮らしですが、とんぼさんのいる街が懐かしくなり、やはり自分の選んだ街へと戻っていきます。

『キキと新しい魔法』『キキともうひとりの魔女』『キキの恋』『魔法のとまり木』『それぞれの旅立ち』(福音館書店)へと続きます。旺文社文学賞、産経児童出版文化賞大賞、野間児童文芸賞、小学館文学賞、IBBYオナーリスト文学作品賞、路傍の石文学賞、2000年に紫綬褒章、2014年に旭日小授章を受賞しました。

## ロビンソン・クルーソー

D・デフォー 作 坂井 晴彦 訳 ベルナール・ピカール 挿絵  
福音館書店 1975年(富山房 1949)《イギリス 1719》 448p



わたし(クルーソー)は1632年、イギリスのヨーク市で生まれました。三男坊のため家に落ち着く気はなく、世界中を放浪したいと思っていました。1651年、友だちに誘われるままに船に乗ってしまったのです。ムーア人の奴隷となり、その後、ポルトガル船に救われ、ブラジルに渡り、農園で大成功を収めました。

また、放浪の気持ちが抑えきれず、1659年船出しました。しかし、嵐にあって、わたしは無人島に打ち上げられてしまい、仲間は皆、溺れ死んだようです。難破船から食糧など必要なものを運び出し、生活の基盤を作りました。

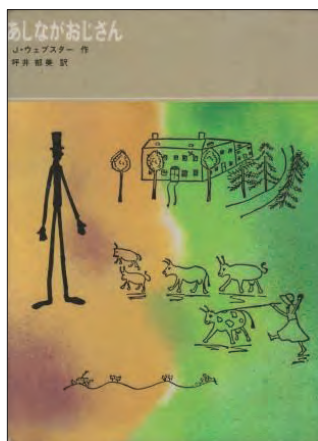
次に、住居を整え、道具をつくり、穀物を育て、土器を造り、パンを焼きました。そして、衣類を整え、丸木舟を造り、島の周りを探検しました。そこで、人間の足跡を発見したのです。

島へ来てから24年目にわたしは**蛮人**と出会いました。彼にフライデーという名前を与え、言葉を教え楽しく暮らしました。そして、島から脱出する計画をたて、海賊から船を奪い返し、帰国の途につくことができました。

デフォーは「イギリス近代小説の父」と呼ばれる人で、『ロビンソン・クルーソー』も大人向けに書かれた小説でしたが、子どもにも大人気になりました。

## あしながおじさん

J・ウェブスター 作・挿絵 坪井 郁美 訳  
福音館書店 1970年(講談社 1962)《アメリカ 1912》 264p



孤児院で最年長の、17歳のジェルーシャ・アボットは、成績が良かったので高校に入れてもらうことができ、さらに、作文力・独創力があるので大学へ行かせたいという評議員が現れたのです。月に1回必ず手紙を書くことと評議員の名前を明かさないと条件でした。その評議員の後ろ姿の影が巨大な足長蜘蛛のようだったので、宛名は「あしながおじさん」としました。

一人でいられる場所ができたアボットは自分というものを感じることができ、毎月のお小遣いも十分で、買い物も自分の財布からできるようになりました。同室のサリーとジュリアとも対等に付き合うことができました。クリスマス休暇には図書館の本を読みまくり、夏休みにはあしながおじさんの農場に行くことができました。あしながおじさんへの手紙は欠かしたことはありません。大学卒業後、その農場で生活を始め、作家を目指します。そこは、ジュリアの親戚のペンドルトンが以前所有していた農場でした。ペンドルトンと何度も会うたびに彼に恋心を抱くようになります。苦しい胸の内を、あしながおじさんに直接話したいと申し入れ、そして、訪ねていきます。初めての対面に緊張しながら、あしながおじさんの書斎へ通されると、そこにいたのは…。

## 若草物語 上・下

ルイザ・メイ・オルコット 作 海都 洋子 訳 ハーバラ・クニー・ホーター 挿絵  
岩波少年文庫2013年(金の星社 1949)《アメリカ 1868》上258p下300p



南北戦争時代のアメリカでの話です。父は従軍牧師として戦地に赴き、マーチ家は愛情深い母と美しいメグ、活発なジョー、穏やかなベス、おませなエイミーの四人姉妹が貧しいながらも健気に明るく生活していました。

隣家のローレンス氏はマーチ家の健気な生き方に感動して贈り物をしてくれます。活発なジョーは気難しいといわれているローレンス氏に特に気に入られ、パーティーでローレンス氏の孫ローリーと出会い友だちになりました。

四人の姉妹は演劇をしたり、それぞれの庭に花を植えたり、毎日毎日楽しく過ごしていました。ローリーも4人とすっかり仲良くなり遊びの仲間に入ることもしばしばです。そんな時、父危篤の電報が入ったのです。

ローレンス氏や娘たちに見送られ母は父のもとへ急ぎました。その留守中にベスが猩紅熱に罹り、危篤状態に陥ってしまいます。マーチ家は重苦しい雰囲気覆われてしまうのですが…。

アメリカ児童文学不朽の名作といわれる本書は、自伝的な物語です。マーチ家の4人姉妹と母は、作者オルコットの4人姉妹と母がモデルです。次女のジョーは作者自身がモデルだといわれています。

## 秘密の花園 上・下

バーネット 作 山内 玲子 訳 シャーリー・ヒューズ 挿絵  
岩波少年文庫 2005年(実業之日本社 1918)《アメリカ1911》上262p 下268p



父はインド駐留の英国軍人で忙しく、母は社交に明け暮れ、メアリは甘えることを知らずに育ちました。9歳の時、両親がコレラで亡くなったため、英国ヨークシャーにある古い大きなお屋敷に住む伯父に引き取られました。

屋敷には10年間開かれたことのない庭がありました。メアリは庭の鍵を土の中から見つけだし、中に入ってみると、荒れてはいるが神秘的な庭でした。

夜、不気味な声を聞きつけ訪ねてみると、伯父さんの息子のコリンが寝ていました。父から憎まれていると思い込み、自分の存在を消していたのです。両親から愛された記憶がないメアリは、同じ思いでいるコリンを何とかしたいと思います。

召使いのマーサの弟で、動物たちとも心を通わすことができる12歳のディコンと知り合ったメアリは、2人で秘密の庭を蘇らせようと計画します。

秘密の花園と名付けた庭に、コリンも来るようになり…。

最初に子どもを主人公として書いた『小公子』(1886年)、続いて『セアラ・クルー』(『小公女』)はベストセラーとなり、米英両国で大評判となりました。前記2作品と趣の異なる本書は今日の読者にも十分に訴えかける力を持っています。

## はるかな国の兄弟

アストリッド・リンドグレン 作 大塚 勇三 訳

岩波書店 1976年・岩波少年文庫 2001年《スウェーデン 1973》 318p



「では、これから兄さんヨナタンのことを話します。《略》それでもすっかり本当の事です。」という書き出しからこの物語は始まります。

兄さんは、階下が火事になって、余命間もない病床の僕を助けようと背負って3階の部屋から飛び降り、僕の下敷きになって亡くなってしまいました。そして、助けてもらった僕もまた間もなく病死してしまいました。

往きついたところは、兄さんが生前良く話してくれたナンギヤラという国でした。兄さんは、怪物を操り村人を苦しめている黒の騎士との戦いの中心となって活躍していました。勇気と優しさで知恵を育みながらハラハラドキドキの冒険を通して、僕も成長していきます。そして、邪悪に打ち勝ちますが、兄さんは、怪物の吐く炎をかぶり、助かることのない深い傷を負ってしまいます。

兄さんは、今度はナンギリマの話をしてくれます。僕はナンギリマに往くために、動くことができなくなったヨナタンを背負い崖の縁に立ちます。前にある暗闇の中に一步踏み出しさえすればいいのです。

「ああ、ナンギリマだ！そう、僕には光が見える！光が見えるよ！」

1958年に国際アンデルセン賞を受賞しました。

## 新版 ガラスのうさぎ

高木 敏子 作 武部 本一郎 画

金の星社 2000年(1977) 190p



6年生の敏子は両親と兄2人、妹2人と東京の本所区に住んでいました。

戦争(第二次世界大戦)が激しくなり、敏子と妹2人は二宮町の知り合いの家に疎開させられました。周りの人はとても親切でしたが、妹2人は家が恋しくて東京に戻ってしまいます。その1か月後、1945年3月10日に東京大空襲がありました。東京の町は戦火に包まれ焼け野原になってしまいました。辛うじて生き残った父と再会できましたが、母と妹2人を見つけることはできません。焼け跡には敏子の家にあった「ガラスのうさぎ」がぐにゃぐにゃになって転がっていました。敏子は再び二宮町に戻りました。

新潟に行くため二宮町まで迎えに来た父は、二宮駅で機銃掃射に遭い亡くなってしまいます。身寄りが近くにはいなく、たった一人になってしまった敏子は、親切な隣人たちの助けで、父の火葬を終わらせます。

戦争中の言葉を知らない現代の子どもたちや若い世代の人たちに、ぜひとも読んで欲しいという思いで、戦争中の言葉の解説を入れて作成されたのが本書です。1978年、厚生省児童福祉文化奨励賞、1979年、日本ジャーナリスト会議奨励賞を受賞しました。

## ノンちゃん雲に乗る

石井 桃子 作 中川 宗弥 画

福音館書店 1967年(大地書房 1947)

278p



ノンちゃんは泣き虫でもなく判断力のあるしっかりした8歳の女の子です。でも、今日は違いました。お母さんがお兄ちゃんと東京へ買い物に出かけてしまったのです。ノンちゃんに内緒で。ノンちゃんは大声で泣きました。お母さんを恨み、泣きながら近くの神社の境内に行きますと、ひょうたん池に手を伸ばしているようなモミジの木がありました。池には白い雲が映っています。ノンちゃんは木に登り池に映る雲にさわろうとしました…。

雲の上にはおじいさんが座っていました。ノンちゃんは隣に座りおじいさんとお話をします。おじいさんは聞きます。「お母さんはどんな人…」「お父さんは…」そして「お兄ちゃんは…」。おじいさんと話しをしていると、あんなに恨んでいたお母さんやお兄ちゃんのことを何でもないように思えてきたのです。おじいさんがお母さんのところへ帰るようにそれとなく勧めてくれます。

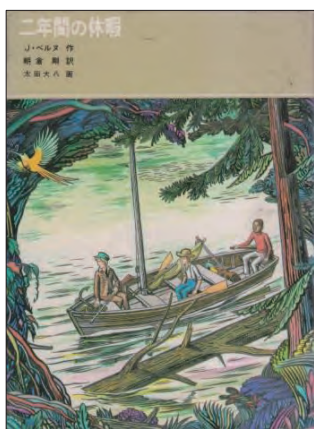
気がつくと、ノンちゃんは床の上に寝かされていました。

本書は、1951年に文部大臣賞を受賞しました。『クマのプーさん』『たのしい川べ』『ちいさいおうち』『ピーターラビットの絵本』の翻訳や『山のトムさん』などの創作活動で、児童文学に寄与し1954年に菊池寛賞を受賞しました。

## 二年間の休暇

J・ベルヌ 作 朝倉 剛 訳 太田 大八 画 544p

福音館書店 1968年・福音館文庫 2002年(博文館 1896)《フランス 1888》



チェアマン寄宿学校はオークランド市にある評判の高い学校です。1860年2月14日に寄宿学校は2か月間の長期休暇に入りました。裕福な家庭の子弟14人はスクナー船に乗ってニュージーランド一周の旅に出る予定でした。

14日の夜、14人の子どもたちと見習い水夫のモコは、既に船に乗り込んでいます。船長たちは明日の朝乗り込んでくる手筈です。しかし、なぜか船は動き出し、沖合に出てしまったのです。それを知った親たちは嘆き悲しみました。

8歳～14歳の少年を乗せた船は嵐に巻き込まれ無人島に漂着しました。14人の少年たちの国籍はアメリカ、フランス、イギリスです。見習い水夫モコは12歳です。無人島でこれから何ヶ月あるいは何年も過ごすとしたら少年たちは団結し協力しなければなりません。リーダーを決め、その指示に従って、国籍の違いによる感情的な争いや、海賊たちの襲撃などをうまく切り抜けました。

そして、2年後に無事にわが家に帰ることができたのです。(2年間の休暇です。『十五少年漂流記』という書名で古くから親しまれています。)

学校で習っていること、遊びや大人たちに教えてもらったことを基にして、無人島で生き抜いていく物語です。

## オオカミに冬なし

クルト・リュートゲン 作 中野 重治 訳 K・J・ブリッジ 挿絵  
岩波書店 1964年(岩波書店 1960)《ドイツ 1955》 368p



この年の9月にアラスカには早すぎる冬がやってきました。11月6日ワシントンから“バロー岬に閉じ込められている捕鯨船7隻と乗員275人を救助せよ。”という命令書が、政府のカッター「牡グマ」号のタドル船長に届きました。

アリューシャン列島まで粘って進んだ船長ですが、12月2日入江に閉じ込められ、進むことを諦めます。しかし、ジャーヴィス航海士は氷上を歩いてでもバロー岬に行くこと主張し、人類学者で医者の若いマッカレンもついてきました。

まずは、275人分の食糧を調達するために、トナカイの群れを手に入れなければなりません。ドクトル・ケルトソン、エスキモー族のアルティサールクとレヴアルンド・ロップの3人がトナカイの群れを持っていることを確認します。

2人は死に直面する困難と闘いながらトナカイの群れを手に入れ、アルティサールクとロップの参加も得て、遂にバロー岬に到着するのです。そこには骨と皮ばかりに痩せ衰えた船員たちが…。救助は間一髪間に合ったのです。

本書に書かれている物語は、グリーンランドとデーヴィス海峡、さらには、アラスカで、1867年から1894年にかけて実際にあった話です。

『オオカミに冬なし』で、ドイツ児童文学賞を受賞しました。

## 王への手紙 上・下

トンケ・ドラフト 作・挿絵 西村 由美 訳  
岩波少年文庫 2005年《オランダ 1962》 上 410p 下 372p



遠い昔、大山脈の東にダホナウト、西にウナーヴェンという二つの王国がありました。ダホナウト王国に住む16歳のティウリは騎士になるための最後の試練の日の夜、見知らぬ男から助けを求められ、手紙を渡されました。

見習い騎士ティウリの預かった手紙は二つの王国の未来を左右する重大なものでした。大山脈を越えて隣国へ向かうティウリにスパイたちがつきまといま。そんな時、大山脈を越える案内をしてくれたのがピアック少年です。

ダングリアの市長は、スパイからの情報でティウリの持っている手紙を奪おうとします。ティウリは手紙を必死になって暗記し、焼却してしまいました。

さまざまな陰謀や命を狙う騎士たちから逃れ、ティウリとピアックはウナーヴェン王に会うことができました。ピアックの助けを受け、暗記した手紙を王の前で話しました。ウナーヴェン王はこの真相に気づきます…。

『白い盾の少年騎士』(岩波少年文庫)へと続きます。

オランダには「金の石筆賞」という児童文学賞があります。2004年『王への手紙』は「金の石筆賞」を受賞した過去のすべての作品の中で第1位に選ばれました。1976年には「青少年文学のための国家賞」も受賞しました。

## 銀河鉄道の夜

宮沢 賢治 作 ささめや ゆき カバー絵

岩波少年文庫 2000年(文圃堂 1934) 234p



ジョバンニは、放課後活版所で働き、家計を助けています。授業中眠くてうまく答えられないジョバンニを親友のカムパネルラは助けてくれます。

ケンタウル祭りの日、ザネリたちにかからわれましたが、カムパネルラはすまなさそうな顔をしてザネリたちと一緒に通り過ぎていきました。一人ぼっちのジョバンニは黒い丘の頂上に登り、草の上に寝転がりました。するとどこかで「銀河ステーション」という不思議な声がしたと思うといつの間にか夜の軽便鉄道に乗っていました。前の席にはカムパネルラが座っています。二人で楽しく幻想的な世界を楽しんでいますと、車掌が来て切符を拝見しますと言います。カムパネルラはすぐに切符を出しましたが、ジョバンニは持っていた紙切れを見せました。車掌は「三次空間の方からですか。」と尋ねます。

その後、四人連れが乗ってきて、氷河に船がぶつかって、ここに来たということです。四人連れはサウザンクロスの駐車場で降り、2人きりになったと思ったのですが、いつの間にかカムパネルラもいなくなっていました。

我に返って、草の上から起き上がり、祭りで賑わう川の方へ行くと、ザネリを助けようとして、カムパネルラが溺れて亡くなったことを知るのでした。

## クラバート

オトフリート・プロイスラー 作 中村 浩三 訳 ヌル・ルツィグ 挿絵  
偕成社 1986年(1980)《ドイツ 1971》 383p



仲間と門付けをして生活している14歳のクラバートは、シュヴァルツコルムの水車場に来いと11羽のカラスが叫んでいる夢を見ました。

水車場では毎日粉ひきをさせられました。仲間は1人を除いて親切でした。親方は魔法を使い、弟子たちにも魔法を少しずつ教えていました。1年経って、見習いを卒業しました。ここでは3年が1年で過ぎてしまいます。

大晦日の夜、一番親切にしてくれたトンダが、翌年にはミヒャルが不審死しました。その謎を教えてくれたのは、まぬけなふりをしていたユーローです。不審死から逃れるためには、大晦日の夜、クラバートを好いてくれる女の子が親方に、クラバートを自由にして欲しいと頼み、試験に合格すれば、親方が死ぬということです。仲間の不審死は親方の身代わりだったのです。が、親方が死ねば魔法は全て使えなくなります。クラバートは決心します。

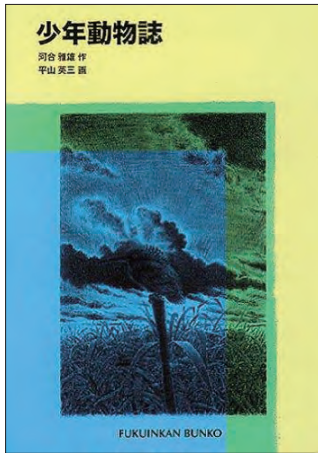
ドイツの一地方に伝わる《クラバート伝説》をもとにしたものです。

本書は、国際アンデルセン賞・作家賞次席、ドイツ児童文学賞、ヨーロッパ児童文学賞などを受賞しました。なお、他に『小さい魔女』(学研)、『小さい水の精』(徳間書店)など多数あります。

## 少年動物誌

河合 雅雄 作

福音館書店 1976年 299p



「あわいサファイア色の空に、巻層雲が凍てついたように浮かんでいる。日が沈んだあとの残照が、西の空を茜色に染め、その中にただようレンズ雲を金色に縁どっている。柿の病葉が、二、三枚、舞い落ちかけて、突風にあおられたのか、急に空に向かって垂直にあがっていった。」(本文より)といったように情景描写が素晴らしく、動物生態学者らしい観察眼に裏打ちされた、野生の小動物たちとの诗情溢れる交流記です。

草むらからのぞくイタチ、枯野に独り遊ぶ夕ヒバリ、青黒い淵にひそむ大鯉…。さまざまな動物たちのひそやかな息づかいが、人間の生活のすぐ近くに聞きとれた、著者の生まれ故郷丹波篠山の自然を舞台に、厳しくもやさしいそしてこまやかな動物たちとの交遊の世界を、少年の日々を回想して綴った、「裏藪の生き物たち」「イタチー落葉の精」「おばけ鮎と赤い灯」等10篇からなる珠玉の短篇集です。

少年時代の身近な自然との直接体験が、やがて成長して迎える間接的体験に大きく影響していくことを啓示する貴重な著作です。

他に、21篇からなる『小さな博物誌』(筑摩書房)があります。

## さすらいのジェニー

ポール・ギャリコ 著 矢川 澄子 訳 建石 修志 装画

大和書房 1983年(学習研究社 1971)《アメリカ 1950》 357p



両親にあまりかまってもらえない8歳の少年ピーター・ブラウンはばあやに大切に育てられていました。猫の好きなピーターですが、ばあやが猫は嫌いなので飼わせてもらえません。ある日、ピーターは交通事故に遭いました。

意識が戻ったピーターは自分が白い猫の姿に変わっていることに気づきます。猫嫌いのばあやはピーターだとは気づかず、追い出してしまいました。

ピーターは、家を追い出されたと思いこんでいる雌の野良猫ジェニーに助けられ、2ひきに親切にしてくれるグリムズ老人を振り切って、グラスゴー行の船に乗り込み、そこで、ジェニーから猫の生活に必要なことを学びました。

ジェニーから教わってばかりいたピーターですが、海に落ちたジェニーを助けるところまでに成長し、陸に上がると、ジェニーがピーターを頼るほどになりました。しかし、ピーターがシャムネコのルルに心惹かれるようになったため、ジェニーはボス猫のところに行ってしまいます。彼女の大切さを知ったピーターは、ボス猫を倒したものの気を失ってしまい、気がつく…。

作者はスポーツ記者として名を馳せたあと、作家活動に入りました。映画「ボセイドン・アドベンチャー」の作者としても有名です。



## 黒い兄弟 上・下

リザ・テツナー 作 酒寄 進一 訳 佐竹 美保 カバー画  
あすなる書房2002年(福武書店 1988)《スイス 1941》上359p 下407p



貧しい農家の息子のジョルジョにとって1838年の夏は最悪の年でした。日照りが続き、山火事が起こり、さらにお母さんが怪我をしたのです。

ジョルジョはミラノの煙突掃除夫に売られることになりました。途中、両親を亡くし、財産を親戚に奪われたアルフレドとピアンカの兄妹に出会いました。

ミラノの別々の町の煙突掃除夫として働くジョルジョとアルフレドは食事もまともに貰えず、ぼろをまとい裸足のままで「煙突掃除！」と叫びながら街を歩き回る毎日です。

街の愚連隊と戦うためにアルフレドは「黒い兄弟」という組織を作りました。ジョルジョも加えて貰うことにしました。が、この時すでにアルフレドは肺を病んでいました。煤まみれになる煙突掃除夫は長くは生きられないのです。

ある日、ジョルジョの住む横町に馬車がやってきました。ジョルジョたちの運命を変えてくれる大変な出来事が起ころうとしていました。

リザ・テツナーはドイツ生まれですが、39歳の時ナチスの政権掌握と共にスイスに亡命しました。その時、子どもたちの人身売買を知りこの作品を書きました。

メルヘンの語り手としても著名で、ヘルマン・ヘッセに激賞されました。

## たたかいの人 一田中正造

大石 真 作 市川 禎男 装丁・挿絵  
フレーベル館 2007年(1971) 288p



明治元年5月、名主の兼三郎は領主代理の用人の悪行に腹を立て陳情に及びましたが、牢に入れられ、翌年、用人とともに、領地から追放されました。

兼三郎は明治3年、官吏となり、田中正造と改名しました。30歳の時です。

渡良瀬川から死んだ魚が流れてくるという情報を得た県令の藤川は、魚の捕獲を禁じたために転任させられました。次に来る三島県令は悪評の高い人です。県会議員になっていた正造は三島県令の悪行を訴え続けました。

明治23年の洪水の後、草木は全て枯れ、蒔いた種も育ちません。水質検査の結果、足尾銅山からの排水汚染であることがわかりました。衆議院議員となった正造は鉱毒のことを議会で訴え続けました。大勢の農民たちが農商務大臣の榎本武揚に訴えました。その結果、榎本は辞任するはめになりました。

立ち上がった農民たちは官憲の力で押しつぶされ、正造がいくら議会で演説しても政府は動きません。意を決した正造は議員を辞め、天皇に直訴することになりました。しかし、直訴の瞬間に取り押さえられてしまったのです。

東京の学生千人以上が被害地を視察することにより、政府も内閣に鉱毒調査会を設けることにしました。やっと正造の願いが叶い始めたのです。

## 精霊の守り人

上橋 菜穂子 作 二木 真希子 絵

偕成社1996年・新潮文庫2007年 326p



短槍使いの女用心棒バルサは、激流逆巻く川に落ちた少年チャグムを助けました。チャグムは新ゴゴ皇国の第二皇子で、館に呼ばれたバルサは意外な陰謀を知ることになります。チャグムは王から命を狙われているからです。チャグムの体に“水の守り手”の卵が宿っているということが分かったからです。チャグムの母は泣く泣くバルサにチャグムを預け逃がしました。

王の追手に追われバルサは大けがを負い、幼馴染のタンダに助けられ、呪術師のトロガイに、“水の守り手”の卵について教えられます。長い冬の間バルサはチャグムに生活に必要なことと武術を教え続けました。

王の追手と卵を奪い取ろうとする怪物ラルンガに追いかけられたバルサとチャグムですが、チャグムは何者かに操られるようになくなりました。

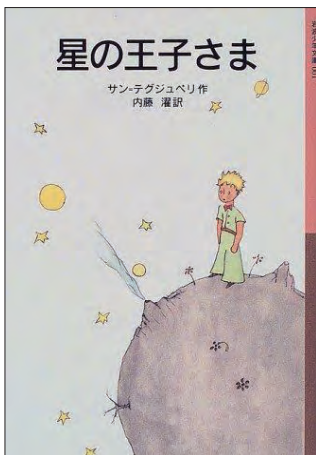
夏至の日はもう間近です。夏至の日にか何かが起こると言われています。

『闇の守り人』『夢の守り人』『虚空の旅人』『神の守り人』『蒼路の旅人』『天と地の守り人』(偕成社)へと続きます。他に『獣の奏者』(講談社)などがあります。本書で野間児童文芸賞・産経児童出版文化賞を、2002年に巖谷小波文芸賞を、2014年には児童文学の最高賞である国際アンデルセン賞を受賞しました。

## 星の王子さま

サン＝テグジュペリ 作・画 内藤 濯 訳

岩波少年文庫 1976年(岩波書店 1953)《アメリカ1943》 150p



星の王子さまは、家ほどの大きさの小さな星に1人で暮していましたが、ある日、どこからか飛んできた種が、芽を吹き、花を咲かせます。王子さまが「ほろりとするほど」美しい花でした。王子さまに対し、我がまま放題にふるまっていたバラの花も、実は王子さまが好きだったのです。でも、お互いに相手幸せにする自信がなく、王子さまは星巡りの旅に出ていくのです。

六つ目の星の地理学者から、花は「はかない」と聞き、「ぼくはあの花を、ぼくの星にひとりぼっちにしてきたんだ」と思うのでした。

七番目の星、地球においてきた王子さまは、この物語の語り手である孤独なパイロット(ぼく)と出会い、「ね…、ヒツジの絵を描いて！」と頼みます。なぜヒツジなのか物語が進む中で明らかになっていきますが、飛行機の故障でサハラ砂漠に不時着したぼくはそれどころではなく…。しかし、王子さまの友だちのキツネから、肝心なことは目に見えない、心でみなくてはいけないことを教えられ、王子さまと一緒に、遂に、砂漠にある筈のない「村にあるような井戸」を見つけるのです。王子さまもぼくも以前とは違ってきたのです。

そして、王子さまは、「ぼくの花」のため、魂となって帰って行くのでした。

## ホビットの冒険 上・下

J・R・R・トールキン 作 瀬田 貞二 訳 寺島 竜一 挿絵

岩波少年文庫 1979年(岩波書店 1965)《イギリス 1937》上306p下254p



引っ込み思案で、気のいいホビット族のビルボ・バギンズのところへ、大魔法使いガンダルフがドワーフ小人13人を連れてやってきました。ドワーフ小人族が竜のスマウグに奪われた黄金を取り返す旅に、忍びの者として同行して欲しいというのです。

平穏な暮らしを好むビルボは頑なに断りますが、心の奥底には、きっかけさえあたら表に出ようという性分もあって、ついに出かけることにしました。

途中トルロルに出会ったり、ゴブリンと戦ったりと苦難の旅になりました。しかし、その途中の洞穴で、姿を隠すことのできる指輪を拾ったのです。

スマウグの棲む洞穴を見つけ、姿隠しの指輪を使って、スマウグの弱点を知ることができました。そして、スマウグを倒したのです。

無事に故郷に帰ったビルボですが、村の人たちからはあまり歓迎されませんでした。しかし、ビルボはこの冒険(ゆきて帰る)で、大きく成長しました。

その後、ビルボは養子のフロド・バギンズにこの指輪を譲ります。この指輪は邪悪なものと分かり、フロドが仲間と“指輪”を捨てに行くという壮大な『指輪物語』(評論社)へと続きます。

## ライオンと魔女 ナルニア国ものがたり 1

C・S・ルイス 作 瀬田 貞二 訳 ポーリン・ベインズ 挿絵

岩波書店 1966年・岩波少年文庫 2000年《イギリス 1950》 252p



ピーター、スーザン、エドモンド、ルーシの4人きょうだいは第二次大戦中、片田舎に住む老学者の家に疎開させられました。その屋敷は大層大きくて、部屋が沢山あり、その中の一つの部屋に古びた衣装箱があったのです。

ルーシが箱の中に入り奥へ進むと森の中に出てしまいました。そこはナルニア国でした。ナルニア国は白い魔女に支配されていることを知りました。

次々にナルニア国にきた4人ですが、エドモンドは白い魔女の手下になってしまいます。ナルニア国を救うためにライオンのアスランが現れました。ピーターは皆を救うため、アスランと共に戦うことを決めたのです。

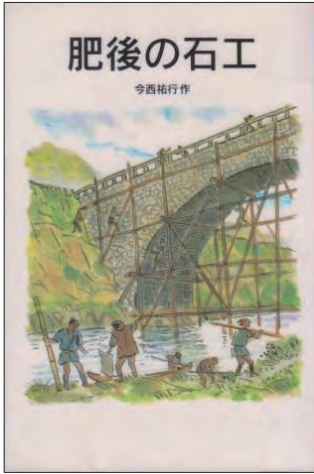
アスランは、白い魔女の言う「世のはじめからの魔法」にかかり、殺されてしまいます。アスランが死んでしまえばナルニア国は終わりです。

しかし、「世のはじまりより前からのもっと古い魔法」でアスランはよみがえり、魔女に石像にされていた者たちもよみがえったのです。

『カスピアン王子のつぼえ』『朝びらき丸 東の海へ』『銀のいす』『馬と少年』『魔術師のおい』『さいごの戦い』(岩波少年文庫)へと続きます。『さいごの戦い』で、1957年にカーネギー賞を受賞しました。

## 肥後の石工

今西 祐行 作 太田 大八 カバー画・挿絵  
岩波書店 2001年(実業之日本社 1965) 240p



鹿児島島の甲突川に美しい眼鏡橋が五つ架かっていました。この橋づくりに  
かり出された人々は石工と呼ばれ、肥後の種山村に住む人たちでした。

架けられた橋は敵に襲われた時、すぐに壊れるように設計されています。  
その秘密を知る石工たちは橋が完成すると人目につかぬところで殺されま  
した。これを「永送り」といいました。(噂話かもしれませんが)

石工頭の名職人・岩永三五郎は、実績を買われ、薩摩藩に招かれて石橋を  
築くこととなります。工事が終り、帰路の途中、配下の石工たちは薩摩藩の刺  
客に襲われ、自身もまた“徳之島の仁”という刺客に追われることに。しかし、  
“仁”は三五郎の人となりを知り、身代りに乞食を殺して薩摩藩へと戻ります。

三五郎は、乞食の遺児たちを肥後に連れて帰りますが、親の仇と恨まれる  
こととなります。

三五郎、遺児たちそして仁の思いや葛藤を通して、時代に翻弄される人た  
ちの苦悩、人としての在り方を追いながら、物語は進められていきます。

この作品で、「国際アンデルセン国内賞」「NHK児童文学奨励賞」「日本児童  
文学者協会賞」を受賞しました。

## 床下の小人たち

メアリー・ノートン 作 林 容吉 訳 ダイアナ・スタンレー 挿絵  
岩波少年文庫 2000年(岩波書店 1956)《イギリス 1952》 246p



イギリスの田舎の、ある古い家の台所の床下に、小さな小人の家族が住ん  
でいました。お父さんは靴職人のポッドさん、お母さんは家庭的な主婦のホミ  
リーさん、そして、娘のアリエッティです。

小人たちは、衣・食・住のすべてを上に住む人間から「借りて」ひっそりと  
生活していました。魔法を使えるわけではなく、ただ、人間から「借りて」、人  
間と同じ生活をしているのでした。

アリエッティは上に住む人間の男の子と仲良くなり、人形セットの道具を床  
下におろしてもらい、たいへん豊かな生活を送っていました。

ところが、男の子の行動が大人の間に見つかり、その家をいぶりだされ  
てしまいました。小人たちは人間に見られてはいけません。

その後は、大変な思いをしながら、安住の地へと向かいます。

『野に出た小人たち』『川をくぐる小人たち』『空をとぶ小人たち』『小人たちの  
新しい家』(岩波少年文庫)へと続きます。「人間文明への過度の依存は種族の  
破滅につながる」というポッドさんの言葉が胸にこたえます。

イギリスの図書館協会から、カーネギー賞を授与されました。

## あらしの前

ドラド・ヨング 作 吉野 源三郎 訳 ヤン・ホーウィ 挿絵  
岩波少年文庫 2008年(岩波書店 1951)《アメリカ 1943》 272p



オランダの片田舎に住むお医者さん一家は、楽しく平和に暮らしていましたが、アムステルダムに住んでいる長姉のミーブは、そこで、ドイツ軍が侵入してくるという話を聞いてきます。しかし、弟妹たちは信じません。

お父さんの病院にヴェルナーというユダヤの少年がやってきました。彼の両親は、ドイツから逃げるおじさんに彼を預けたのです。おじさんが病に倒れたため、お父さんはヴェルナーを自分の家で預かることにしました。

ミーブは傷病兵を運ぶ運転手をしていて、家に帰ってくるたびに戦争の話をしていましたが、やはり兄弟たちには受け入れられませんでした。

けれども、お父さんはヴェルナーに、きみはアメリカに行った方が良いと話しました。この静かな村にもドイツ軍がやってくると感じたからです。実際に落下傘部隊が村に降りてきて、村は騒然となり、戦場と化しました。ミーブは車を使って命がけで妹を助け出し、ヴェルナーを脱出させたのです。

お医者さん一家のその後は『あらしのあと』(岩波少年文庫)へと続きます。

作者はナチスが攻め込む前に亡命しましたが、オランダに残った家族は生き残れなかったようです。

## アンネの日記

アンネ・フランク 作 深町 真理子 訳  
文春文庫 2003年(文藝春秋社 1986)《オランダ 1947》 597p



1942年6月14日の日曜日からアンネの日記は始まっています。6月12日が13歳の誕生日で、とても楽しげに書かれています。そして、この日記にキティーという名前をつけ、キティーに語りかけるように日記は書かれ続けます。

1942年7月8日、水曜日。パパにSSから呼び出し状がきました。強制収容所に入れられるのかもしれない。おびえた家族は、翌日に《隠れ家》に移り住みました。そこはパパの事務所の3、4階で、秘密の部屋も作ってありました。

1942年8月14日、金曜日。ファンダーソン一家3人が移り住んできました。両家でのめごと、ママとの衝突。いつでも起こりうる日常の出来事でした。

1943年5月1日、土曜日。ここでの生活は、隠れ家暮らしをしていない他のユダヤ人に比べたら天国のようなものでした。

1944年2月22日、土曜日。「春のめざめ」と題して、ファンダーソンの息子パーターに憧れの気持ちを持つようになったことが記されています。

1944年8月1日、火曜日。ここで日記が終わっています。

1944年8月4日。あるオランダ人の密告により、ゲシュタポが《隠れ家》を急襲しました。そして、1945年3月頃、収容所の中で病死しました。

## ぼんぼん

今江 祥智 作 長 新太 画

理論社 2012年(「教育評論」1970～1973) 430p



昭和16年、小学4年生の小松洋は、中学1年生の兄の洋次郎とプラネタリウムを見に行き、その帰りに伯父の家に寄ると、父が頭の大けがで病院に運び込まれたことを知らされました。その怪我がもとで父は亡くなりました。

その後、佐脇さんが男衆としてやってきました。佐脇さんは60歳だというのに若者をしのぐ体力を持っていて、洋次郎も洋も、父親を失ったにもかかわらず、戦争中の困難な時期を乗り切ることができたのです。

佐脇さんは老人の知恵と若者の強さを持っている上に、絵も上手で料理の腕前も大したもの。ある時、洋次郎の学校のプールが「大日本帝国陸海軍軍隊」の使用のため生徒たちの使用が禁止されました。佐脇さんは海軍少佐に変装して、その真相をつきとめてしまいます。

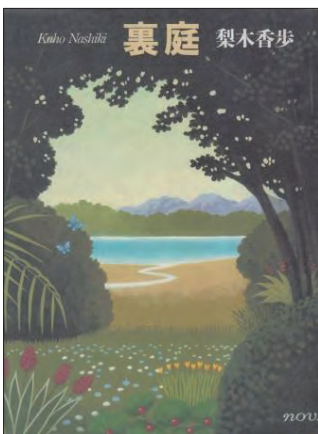
終戦の玉音放送を聞いていた時、佐脇さんは「日本が負けよった。」と言ったばかりに隣にいた憲兵に殺されてしまいます。空襲で家も焼かれ、長兄も戦死し、何もかも失ってしまった小松家ですが…。

長編4部作『ぼんぼん』『兄貴』『おれたちのおふくろ』『牧歌』(理論社)で、第10回路傍の石文学賞を受賞しました。

## 裏庭

梨木 香歩 作 矢吹 申彦 装幀装画

理論社 1996年 324p



バーズ屋敷の秘密を、照美の親友の祖父丈治さんが話してくれました。子どもたちの遊び場である奥庭のほかに、屋敷の中の大鏡を通してしか行けない裏庭があり、バーズ家の庭師として宿命づけられている人が裏庭を手入れしているというのです。庭師は裏庭にエネルギーを吸い取られるのか、とても体が弱く、そこは死の世界に近い場所ではないかと言われています。

子守をしていて弟の純を死なせてしまったと悔やんでいる照美、母親から愛されなかったと思い込んでいる母、口下手で表現がぎごちなく、純の笑顔に応えられなかったと悔やむ父。皆、それぞれの悩みや傷を持っています。

丈治さんが脳溢血で倒れ、心配の余り何も考えられなくなった照美はふらふらとバーズ屋敷の大鏡の前に来ていて、そして、裏庭に出ていたのです。

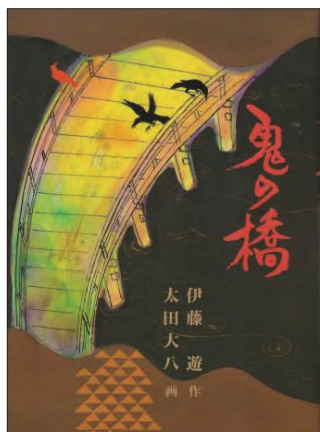
そこは、大変な混乱に陥っている世界で、世界が分裂すれば照美は元に戻れません。心を失くしている世界、傷を真正面から見ず癒しだけを求める世界、眠り込んでいる世界…。奥庭では両親たちが照美を捜し回っています。

本書は児童文学ファンタジー大賞を、『西の魔女が死んだ』(小学館)で日本児童文学者協会新人賞、新美南吉文学賞、小学館文学賞を受賞しました。

## 鬼の橋

伊藤 遊 作 太田 大八 画

福音館文庫 2012年(福音館書店 1998) 344p



篁が10歳の時、異母妹の比右子が小野家にやってきました。行ってはいけない古寺で遊んでいる時、異母妹は古井戸に落ちて亡くなってしまいます。

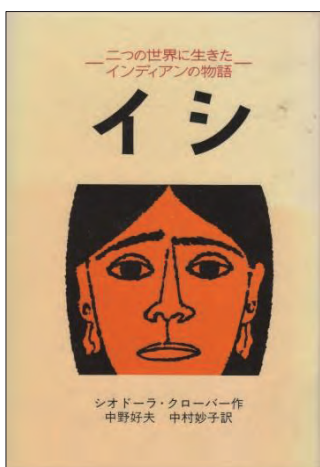
責任を感じた篁はその古井戸に行き、その中に入り込んでみますと、そこは死者の世界でした。篁は、「鬼から人の世を守れ！」と帝に言われていた坂上田村麻呂に出会い、一括されてこの世に戻ってきました。

大雨が4日間降り続いた翌日、五条橋に行ってみると、少女が「橋が流されるからあの流木をどけて！」と叫んでいます。そこへ、大男がやってきて、橋が流されることに驚き、川に入って流木を取り除いてくれました。

少女の名は阿子那、大男は鬼で非天丸といいました。非天丸に恨みを持つ鬼が三匹やってきて、非天丸と篁は死者の世界へ連れていかれ、阿子那は現世で囚われの身となりました。田村麻呂からもらった弓と破魔矢で阿子那を助け、非天丸とも仲良くなった頃、盗賊たちが五条橋を焼き払うところに出会います。そして、放火犯にされかけた篁ですが…。

小野篁は平安初期に実在した人物で、昼間は京の偉いお役人で、夜はあの世へ通い閻魔大王の右腕として働いたという不思議な伝説を持っています。

## イシ —二つの世界に生きたインディアン—

シオドーラ・クローバー 作 中野 好夫・中村 妙子 訳 ル・ス・ロウ 画  
岩波書店 1977年《アメリカ 1964》 284p

事実をもとに書かれたものです。アメリカインディアン・ヤヒ族の少年イシは祖父母、母、伯父、従妹、ティマウイの7人で暮らしていました。同族の仲間たちは砂金目当てにやってきた白人たちに殺されたり村を追われたりして、7人だけが残ったのです。イシは13歳で(男の家)に移り、そこで祖父から、父が白人から殺された様子やヤヒ族の国造りの昔話などを聞かされます。ヤヒ族のことを忘れず、獲り入れの祝いなど古くからの儀式を行い続けました。

また、白人がやってきて、偵察に行ったティマウイは殺され、イシたちは逃げ、ウォウヌポ村に落ち着き、そこで祖父母は亡くなりますが、平穏に20年が過ぎました。その後、白人に見つかり伯父と従妹は行方知れずになりました。

母も亡くなり、イシはヤヒ族の村に帰ることにしました。途中、疲れて倒れていると、保安官に助けられ、理解のある白人の計らいにより博物館に住むようになります。その人こそ館長で、作者の夫アルフレッド・クローバーでした。

『イシー北米最後の野生インディアン』が1961年に出版され、たちまちベストセラーになりました。本書は少年少女向きに作者自身が書き直し1964年に出版されました。

## 風をつむぐ少年

ポール・フライシュマン 作 片岡 しのぶ 訳  
あすなる書房 1999年《アメリカ1998》 207p



シカゴに住むブレントは父の転勤で4回も転校をしている高校生です。友だちにどのように気に入られるか、かっこよく見せられるか、そればかりを気にしていて、パーティーの席上、上辺だけの自分を曝け出すことに。

死にたいと思い、高速道路でハンドルから手を放します。気がつくと、ブレントは無事で、追突した18歳になるリーという娘が亡くなっていました。

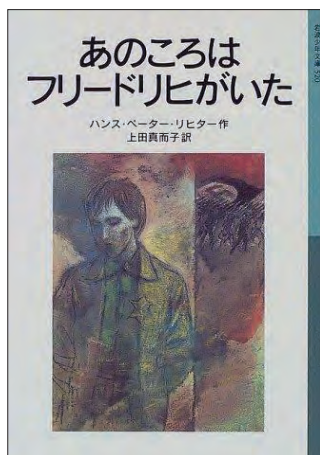
後悔に苛まれたブレントは、リーの母の「リーの顔をした風で動く人形を四つ作ってリーの名前を入れてアメリカの四隅の州に立てて欲しい」という申し出を、償いができると思い、引き受けることにしました。

ワシントン州ではハープ弾きの人形を、カリフォルニア州では潮吹きクジラと人魚を、フロリダ州では楽隊を、メイン州では色鮮やかな人形を作りました。それぞれの場所で風で動く人形を見た人たちが心を通わせていました。メイン州で出会った女の人から「あなたはいい人だ。」と言われ、自分もこの世の一員として認められたことに感動するのです。

前作『種をまく人』(あすなる書房)よりも人の行為の循環性をもっと深くしたものと云えます。他に『ウェズレーの国』(あすなる書房)という絵本があります。

## あのころはフリードリヒがいた

ハンス・ペーター・ヒター 作 上田 真而子 訳 岩淵 慶造 挿絵  
岩波少年文庫 2000年(岩波書店 1977)《ドイツ 1961》 250p



1925年、ぼくが生まれ、1週間後に友だちでユダヤ人のフリードリヒが生まれました。彼のお父さんのシュナイダーさんは郵便局員で生活も豊かでしたが、ぼくの家は祖父の援助を受けていて、入学式もみじめなものでした。

しかし、その頃からユダヤ人への迫害が始まり、ユダヤ人の小児科医の看板に「ユダヤ人」と赤く書かれていたり、ボール投げをしていて、ぼくがガラスを割ってしまっても、フリードリヒが「ユダヤのがき」と非難されたのです。

その後もユダヤ人への迫害は続き、シュナイダーさんは職を失い、フリードリヒはユダヤ人学校へ転校させられました。ぼくの父はナチの黨員になったことで就職し、昇進しました。

フリードリヒとはよく遊びましたが、13歳の頃、映画館に入るのも、プールで泳ぐのも監視の目が光っていて、何度も危ない目に遭いました。

1942年、大空襲の時、防空待避所に逃げました。フリードリヒも逃げ込んできましたが、追い出されました。ぼくにはどうすることもできません…。

ニュールンベルク・セバルドゥス出版社の児童文学賞に応募して入選し、英訳され、米国でも出版され、「ミルドレッド・バッチェルダール賞」を受賞しました。



## “機関銃要塞”の少年たち

ロバート・ウェストール 作 越智 道雄 訳

評論社 1980年《イギリス 1975》 302p



第二次大戦中、14歳のチャスは、警報解除が出るとすぐに防空壕から空襲現場に向かいました。少年たちの間で戦争コレクションが流行っていたのです。機関銃を見つけたチャスはニッキーの家の庭に要塞を造り、機関銃を隠し、皆で服務規定も作り、アジトとしました。ニッキーの家に爆弾が落ち、孤児となってしまったニッキーのために二つ目の要塞を造り、少年たちの手で守ることにしました。ドイツ爆撃機を止められない大人を信用していないからです。

1月の夕暮れ、独軍の偵察機が来ました。チャスは機関銃を打ちましたが当たりません。空中砲撃戦の最中、1人の独軍兵士(ルーディ)がパラシュートで降りてきました。1週間も彷徨った拳銃チャスたちの要塞に転がり込んできます。チャスたちと共同生活をするうちに仲良くなりました。

独軍が侵攻してくるという噂が広がり、大人たちは逃げる準備をし、町は大騒動になりました。しかし、少年たちは戦うために要塞に集まりました。

けれども、侵攻はなく、その事実を知らない少年たちは、味方のポーランド兵と銃撃戦になり、そこへルーディが白旗を上げて現れたのです。

本書は、1976年にカーネギー賞を受賞しました。

## タチ はるかなるモンゴルをめざして

ジェームズ・オールドリッジ 作 中村 妙子 訳

評論社 1977年《イギリス 1974》 222p



モンゴルの少年バリユートが見つけた貴重な蒙古野馬の群れから、バリユートがタチと名付けた馬が捕えられ、イギリスのウェールズ動物保護地に送られました。そこにはキティーという少女と祖父のジェイミソン教授(動物学者)と雌の子馬のピープが住んでいました。タチは何日もしないうちにピープと共に保護地を抜け出します。その行方はバリユートとキティーの手紙のやり取りで分かってきます。教授はイギリス中に捜索願いを出しました。いろいろな情報が入ってきますが、フランスにいるというのは確かです。蒙古野馬は水が苦手です。どうやって海を渡ったのでしょうか。タチの傍にはいつもピープが寄り添っています。推測すると、タチは故郷に帰ろうとしているようです。フランス、沿海アルプス、ヴェローナの森、イタリアからオーストリア、ハンガリー、ウクライナへと旅をするタチとピープ。タチは蒙古野馬の中でも誇り高く雄々しい馬です。タチは底なし沼に落ちたピープを助けられませんが、教授たちは軍用ヘリコプターを使って無事に保護します。が、タチとピープは見張りの目を盗んで脱走してしまいました…。

蒙古野馬は現代の馬の原型といわれ、ほとんど絶滅状態のようです。

## グリーン・ノウの子どもたち

ルーシー・M・ボストン 作 亀井 俊介 訳 ピーター・ボストン 絵  
評論社 2008年(1972)《イギリス 1954》 272p



7歳の少年トリーは継母に馴染めず、学校や寄宿舎などで寂しい思いをしています。今度の冬休みは、死んだ母のおばあさん(ひいおばあさん)の所で暮らすことになりました。古いお城のように頑丈な石でできた夢のような家です。ひいおばあさんもトリーを優しく包み込んでくれました。家の中、庭などあらゆる場所に慣れ親しみました。ひいおばあさんの昔話を聞くうちに、300年前にこの家に住んでいた子どもたちの気配を感じ、声を聞き、残してくれたしるしを見つけるようになりました。ある日、雪に覆われたイチイの木の下で、300年前の子どもたちと動物たちはトリーをパーティーに入れてくれました。でも、ふと我に返ると、子どもたちはいなくなっていたのです。せっかく友だちができたと思っていたのに…。

『グリーン・ノウの煙突』『グリーン・ノウの川』『グリーン・ノウのお客さま』『グリーン・ノウの魔女』『グリーン・ノウの石』(評論社)へと続きます。『グリーン・ノウのお客さま』で、1961年度カーネギー賞を受賞しました。

作品の舞台になったのは12世紀に建てられた領主館(マナー・ハウス)です。作者が購入したもので、現在でもこのマナー・ハウスを見学できるようです。

## 西遊記 上・中・下

呉 承恩 作 伊藤 貴麿 編・訳 吉岡 堅二 挿絵  
岩波少年文庫 1986年(童話春秋社 1941)《中国 1570頃》  
上346p 中374p 下373p



花果山の頂上のふしぎな石が破裂して1びきの猿が誕生しました。勇敢な石猿は大冒険をし、美猴王と呼ばれるまでになりましたが、今の生活に満足できず、菩提祖師のところへ修行に行き、「孫悟空」という名前を頂きます。筋斗雲の術や金箍棒を自由自在に操れるようになり、天宮を暴れ回ったため、釈迦如来に取り押さえられてしまいます。

その500年以上後のこと。唐の太宗皇帝の時代、不幸な境遇で育った玄奘は太宗から認められ、取經の旅にでることになりました。三蔵を取經するためということで三蔵法師と名を改めます。苦難の道の途中、両界山で孫悟空に会い弟子にしました。妖怪との戦いに明け暮れながらも西方をめざしますが、三蔵を待ちうけていた妖怪猪悟能(猪八戒)もまた弟子にしました。

さらに西方への旅を続ける途中、流沙河で妖怪に襲われます。悟空が観音菩薩に助けを求めに行くと「悟浄」と言って呼び出し、三蔵に帰依させればよいと教えられます。これが沙悟浄です。弟子たちは三蔵法師を助け、時には妙薬を作り、時には金閣・銀閣等の妖怪を退治し、靈山の頂上を目指します。

## 太陽の戦士

ローズマリ・サトクリフ 作 猪熊 葉子 訳 チャールズ・キーピング 絵  
岩波少年文庫 2005年(岩波書店 1968)《イギリス 1958》 328p



青銅器時代から鉄器時代へ移ろうとするブリテンの一部族の物語です。この部族では、オオカミ殺しという試練を経て戦士となり、緋色のマントを羽織ることができるのです。

9歳のドレムは、屋根裏で、祖父と母が悲しい話をしているのを聞いてしまいます。ドレムの右腕は萎えていて使い物にならない、片腕だけではオオカミ殺しはできないというのです。家を飛び出したドレムは森の中で獵人のタロアに会い、片腕だけでできる禱の名人になるように言われ、練習に励みました。

12歳～15歳までの部族の少年は「わかもの家」に入り、獵の仕方、武器の扱い方などを習い、最後にオオカミ殺しを行います。7人の若者のうちドレムだけが失敗し、混血人の家に行くことになり、そこで羊番をしていました。

1年後の冬は長引き、オオカミたちは腹を空かせていました。ドレムは1匹の迷い羊と老人を追って雪山に登ります。そこで、灰色のオオカミを見つけ、見事しとめますが、そのオオカミは以前、倒し損ねたオオカミでした。

作者は歴史時代物語の大家です。本書の他にローマ時代のブリテンを扱った『ともしびをかかげて』(岩波書店)を頂点とする4部作などがあります。

## スピリットベアにふれた島

ベン・マイケルセン 作 原田 勝 訳  
鈴木出版 2010年《アメリカ 2001》 358p



ミネソタ州に住む15歳の少年コールは、両親との関係がうまくいかず、たびたび警察沙汰を起こしています。ある日、同級生のピーターに後遺症が残るほどの怪我を負わせてしまいました。本来なら、刑務所送りになるところでしたが、アメリカ先住民の血を引く保護観察官ガーヴィーの勧めで、「サークル・ジャスティス(北アメリカ先住民の伝統に基づくもので、従来の懲罰的な裁判制度を補完するものとして導入され、加害者・被害者双方の救済を目指す制度)」の手続きを経て、アラスカ州南東部の無人島に1年間追放されることになりました。

島に送られる途中でも、コールには何の反省の色も見えず、島から脱出することしか考えていません。島に着くと、コールは寝泊りする小屋を燃やし、脱出を図りました。しかし、どう泳いでも岸に押し戻されてしまいます。

岸辺で、ふてくされていると、真っ白な大きな熊が現れました。不遜なコールはこの熊をやっつけることにしましたが、逆に深手を負ってしまいます。

怪我と、厳しい気候、そして、ガーヴィーや古者とぶつかり合うことで、コールは、自分を見つめなおし、頑なな心を開いていきます。

徹底した取材に基づく作品には定評があり、8作品で30近く受賞しています。

## 時の旅人

アリソン・アトリー 作 松野 正子 訳 フェイス・ジェイクス 挿絵  
岩波少年文庫 2000年(評論社 1980)《イギリス 1939》 324p



お母さんはロンドンの冬を心配して、体の弱いペネロピーをダービシャーでサッカー農園を営む大おじと大お婆の家に預けることにしました。姉と兄も一緒にでしたが想像好きのペネロピーだけが不思議な体験をするのです。

古い歴史を持つ農園は興味深く新鮮なところでした。屋敷のあちこちに300年前の世界に繋がる扉があり、なぜかペネロピーだけが開けられるのです。目の前のドアを恐る恐る開けてみると四人の女の人が座っていました。そこは、貴婦人たちが住む荘園館なのでした。そのことをおばさんに話すと、サッカー農園の秘密を話してくれました。屋敷の当主アントニー・バビントン、エリザベス女王と敵対し幽閉されたスコットランド女王メアリーを救うため、地下にトンネルを掘り、脱出させようとして、極刑になったというのです。

再び、サッカー農園を訪れると、ペネロピーはいつの間にか16世紀の農園の台所にいました。ペネロピーの顔立ちは一族のものどそっくりで怪しまれることなく16世紀の世界でアントニー・バビントンと行動を共にするのです。

『チム・ラビットのぼうけん』(童心社)などたくさんの物語を残した作者に、母校マンチェスター大学は1970年に名誉文学博士の称号をおくりました。

## 思い出のマーニー 上・下

ジョン・G・ロビンソン 作 松野 正子 訳 ペギー・フォートナム 絵  
岩波少年文庫 2003年(1980)《イギリス 1967》上238p 下205p



アンナは張り裂けそうなほどの悩みを抱えているので、何もしようとしない、何も考えようとしないことで、自分を表現していました。

養い親のプレストンさんは心配で、医者と相談の上、転地療養に出しました。療養先のペグ老夫妻は、アンナを可愛がり、アンナの自由を尊重し内面に触れようとはしませんでしたので、アンナは好きなように歩き回れました。

最初の散歩の時、入り江に面して建っている屋敷を見つけ、これこそ自分が捜していたものだと思えます。何度も訪れるうちに、屋敷の2階に女の子がいることに気づき、アンナの心に変化が起き始めました。

夜、入江にでかけ、女の子(マーニー)と話をするようになりました。2人はお互いの身の上話をし、好感を抱きあい、楽しく遊ぶようになります。ある夜、マーニーは無人の風車小屋にアンナを置き去りにし、姿を消してしまいます。

アンナは屋敷にでかけ、窓の中にいるマーニーに「絶対許さない」と叫びましたが、失踪はマーニーの意志ではなかったことを知り、許すのです。

周りの人は皆いい人なのに、成長期の子どもには理解できない悩みがあり、許せないことが一杯あるものだということを思い知らされます。

## トムは真夜中の庭で

フィリパ・ピアス 作 高杉 一郎 訳 スーザン・アインツィヒ 挿絵  
岩波書店 1967年・岩波少年文庫 2000年《イギリス 1958》 304p



トムは、弟がはしかに罹<sup>カ</sup>ったため、かつての大きな邸宅を改造したアパートに住んでいる叔母夫婦のところへ預けられることになり、兄弟でいろいろ計画していた夏の休暇の楽しみを奪<sup>ハ</sup>われてしまいました。

ある夜、そんな孤独なトムの心に、アパートの階下のホールにある大時計が真夜中の13時を告げてきたのです。誘われるように階下に降り裏庭に続くドアを開けると、そこには広い邸宅と美しい庭園が広がっていたのです。

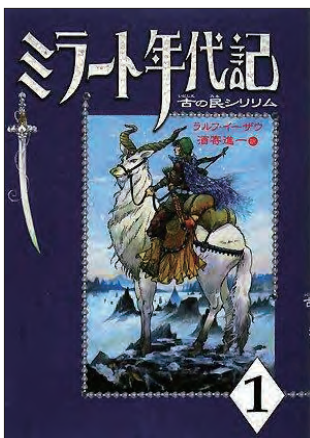
そのの住人と思われる人々の中で、なぜかハティという少女だけが、トムの姿が見えてしかも話すこともできるのです。

物語は、トムとハティを中心に展開していきますが、夜ごと13時の庭園は、ハティが急にお姉さんになったり次の日には少女に戻っていたり、事件性がないのに引き込まれ、読み進めていくと、いよいよトムがアパートを去る日、家主のバーソロミューおばあさんとの出逢いによって全ての謎が解けてきます。おばあさんをあたかも少女でもあるか如<sup>カ</sup>くひしと抱きしめるトム…。

計算し尽くされた精緻な構成力と語り口はさすがで、ファンタジーの傑作といわれる所以だと思います。1958年の「カーネギー賞」を受賞しました。

## ミラート年代記 1 いにしえ たみ 古の民シリリム

ラルフ・イーザウ 作 酒寄 進一 訳 佐竹 美保 画  
あすなる書房 2008年《ドイツ 2005年》 647p



思慮深いエルギルと冒険好きのトウィクスは「シリリムの双子」と呼ばれています。父は人間世界の人であり、母は古の民シリリムの人です。双子はシリリムの力の“通力”（時空を超えたり、自分の意志とモノの意志をつなげたりする力）を持っています。父王は兄（伯父）に殺され、赤ん坊の双子も毒を飲まされました。しかし、双子は忠実な剣士ファルゴンによって助け出され山奥で密かに成長していました。ファルゴンは「エルギル？」と語りかけます。「違うよ、ぼくはトウィクスだよ。」と答えます。そうです、双子は一つの体を共有しているのです。性悪な伯父の支配するミラートの世界は悪くなるばかりです。双子は伯父を倒すためにファルゴンや妖精、乳母ムーリア、ドルムントたちと闘いに出かけました。共有する体と相異なる性格の違いに折り合いをつけながらの闘いです。

『タリンの秘密』『シルマオの聖水』（あすなる書房）へと続きます。ファンタジーの伝統とコンピュータゲームの興奮を併せ持つ独特の作風にミハエル・エンデが目をつけ（前作『ネシャン・サーガ』）、自ら出版社に持ち込んでくれました。「エンデに次ぐドイツ・ファンタジーの旗手」と目されています。

## ヒルベルという子がいた

ペーター・ヘルトリング 作 上田 真而子 訳 クリスa.d.ジ-ハッ 挿絵  
偕成社 1978年《ドイツ 1973》164p



ヒルベルは生まれる時の障害で常に頭痛を訴えていました。頭がきりきり痛み出すと無性に腹が立って何が何だか分からなくなるのです。母親はヒルベルを里子に出し、それから施設に入れました。母親は3カ月に1度くらい、しかも15分くらいしか面会しません。それでもヒルベルは母親が好きでした。

散歩の時、ヒルベルはいつも逃げ出しますが、誰も警察には届けませんでした。《閉鎖的な施設》に送られることを心配するからです。皆はヒルベルのことが好きだったのです。しかし、今回は1日帰ってきませんでした。翌日、羊飼いのおじいさんに連れられて戻ってきました。羊の群れに入り込んだのですが、ヒルベルは大草原のライオンの群れに入ったと話すのです。

ヒルベルが何を考えどうしたいのか、新任のマイヤー先生はよく話を聞いてくれました。が、ホームの管理人とはどうしてももうまくいきません。仲間からも濡れ衣を着せられたヒルベルは、もうここにはいられないと思い…。

児童書としては難しいテーマに取り組んだ作品です。病院や施設で暮らさなければならぬ子どもたちのことを知って欲しいと作者は語っています。1974年ドイツ児童図書選定リストにあげられました。

## モンテ・クリスト伯 上・下

アレクサンドル・デュマ 作 大友 徳明 訳 上422p 下444p  
偕成社文庫 2010年《講談社 1950》《フランス 1844～45》



無実の罪で囚われの身となった主人公は、同じく囚われの身となっていた神父により、5ヶ国語はもとより上流社会に不可欠な礼儀作法をすっかり身につけ、しかも目もくらむような財宝の隠し場所まで教えられ、神父の死を契機に、孤島の監獄からの脱獄に見事成功します。

伯爵としてよみがえった主人公は、かつての婚約者以外にはまったく気づかれることなく、自分を陥れた者たちへ、知恵と勇気と財力をもって、華麗なる復讐を成し遂げていくという、痛快極まりない物語が展開していきます。

しかし、復讐を遂げるごとに、仇敵たちに訪れる不幸、悲惨な状況を目の当たりにし、自分の行為が復讐の許容を越え、“私は神と共にある。私の行為はすべて神のみ心によるもの”という信念に揺るぎを覚え、苦悩するのです。

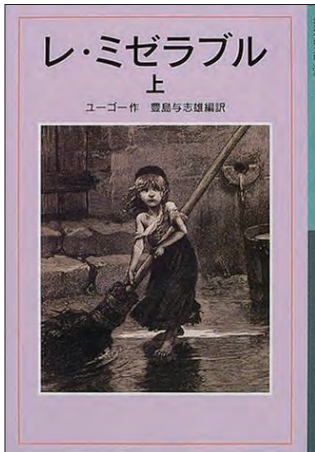
主人公が、この苦悩を乗り越え人生の本当の幸せを掴むことができるのか、壮大な物語は読者のときめき感を煽りながら大団円へと向かっていきます。

著者デュマの傑作「三銃士」の後の刊行とあって、当時の市民の熱狂ぶりはその凄かったようです。原作は全7巻117章からなる超長編作品（日本での完訳本は岩波少年文庫のみ）ですが、いつか挑戦してみたいものですね。

## レ・ミゼラブル 上・下

ヴィクトル・ユーゴー 作 豊島 與志雄 編訳

岩波少年文庫 2009年(1953)《フランス 1862》上 346p 下 374p



一切れのパンを盗んだことで投獄され、脱獄をくり返したために 19 年間もの長い監獄生活を強いられたジャン・バルジャンは、放免後も徒刑囚のレッテルを剥がされることなく、全くものを感じないすねた人間になっていました。

そんな男を温かく迎え入れてくれた司教のもとから銀の食器を盗み出して捕われますが、司教は「食器は私が与えたものだ」と放免させうえ、大伯母の遺産である二つの大きな銀の燭台までも与えるのでした。

人間不信と憎悪の塊であった男の魂は、司教のゆるぎない高潔な精神によって救われ、「正直」に、「人間」として生きることを誓います。

物語は、格差と貧困にあえぐ民衆が自由を求めて立ち上がろうとしている 1820 年頃のフランスを時代背景に、1 人の徒刑囚が良心に目覚め、その誓いの証として銀の燭台だけは死ぬまで離さず、偉大な聖人として生き抜いていく姿をとらえながら展開していきますが、主人公の崇高なまでの生き方は、「わたしには、ただひとつの赦免しか必要ではありません。それは自分の良心の赦免です。わたしは、自分の良心に服従しているひとりの囚人です。」という言葉に、如実に表現されており、この物語に深さと奥行きを与えています。

## ガラスの家族

キャサリン・パターソン 作 岡本 浜江 訳 山野辺 進 カバー画

偕成社 1984年・偕成社文庫 1989年《アメリカ 1978》262p



11 歳のガラドリエル・ホプキンス(ギリー)は幼い時から里親のところを転々としています。母親さえ迎えに来てくれればという思いがあり、里親を裏切ることなど何でもなく、ギリーの心は荒れに荒れていました。

次の里親はトロッターさんです。すでにウィリアム・アーネストという里子がいました。トロッターさんは全ての人を信じる温かい人でした。隣人の盲目の老人の食事の世話までしていて、ギリーにも同じように接してくれました。

ギリーは母から返事をもらい、会いに行くために隣人のお金とトロッターさんのお金を盗み、バスの乗車券を買おうとした時、通報により捕まってしまう。しかしトロッターさんが自分の子どもだといって引き取ってくれました。

隣人とトロッターさんとアーネストがインフルエンザに罹り、3人の看病をしているうちに、ギリーはこれが家族なのだと思うようになってきました。

ギリーの祖母という人が迎えに来て、嫌がるギリーを連れていきました。そして、母もやって来て、これで本当の家族になれると思ったのですが…。

著者の第1作目の『テラビシアにかける橋』(偕成社文庫)はニューベリー賞を受賞しています。1998年には国際アンデルセン賞を受賞しています。

## 13歳の沈黙

E・L・カニグズバーグ 作 小島 希里 訳  
岩波書店 2001年《アメリカ 2000》 304p



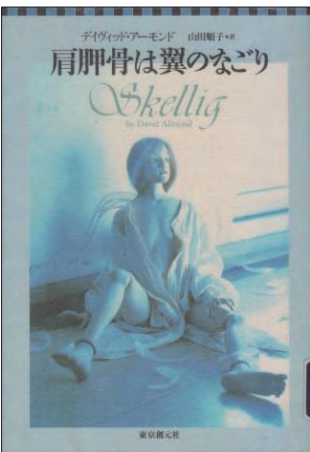
13歳のブランウェル(ブラン)は、義妹の急変に気づき911番に電話を入れましたが、そこで話ができなくなってしまいます。ベビーシッターのビビアンはブランが赤ちゃんを虐待したと言います。保護センターに入れられたブランに親友のぼく(コナー・ケイン)が面会しましたが、話そうとはしません。しかし、目で心を通じ合わせられることに気づき、2人にわかる言葉を書いたカードを提示する(言葉遊び)ことにより、目で合図を送ってくれるようになりました。

ブランの父も義理の母も大学勤めで、知的で、とても子どもを愛していました。祖父母も孫のために一所懸命でした。でも、それは大人の一方的な愛で、決してブランの心を理解したものではなかったのです。ぼくはブランを信じ、ブランの目での合図をもとに、異母姉の支えもあって、いろいろ調べ上げ核心に迫っていきました。そして、遂にブランが言葉を発したのです。種々のことが積み重なって言葉を失っていたのです。

最初に出版した『クローディアの秘密』と『魔女ジュニファーとわたし』(岩波書店)でニューベリー賞を争い、1996年『ティーパーティーの謎』(岩波書店)で2度目のニューベリー賞を、2006年には国際アンデルセン賞を受賞しました。

## 肩胛骨は翼のなごり

デイヴィッド・アーモンド 作 山田 順子 訳  
創元推理文庫 2009年(東京創元社 2000)《イギリス 1998》 241p



マイケルは新しい家に引っ越し落ち着かない気持ちでした。その上、生まれたばかりの妹は重い心臓病で両親も暗い気持ちになっていました。

庭にある今にも壊れそうなガレージで、アスピリンを要求し虫の死骸を食べる奇妙な男スケリグを見つけます。隣家のミナと仲良くなったマイケルは、2人でその男を秘密の屋敷に運び、隠れて世話をしました。男の肩胛骨に翼があることに気がきます。スケリグは始祖鳥の生き残りかもしれないと思いました。回復したスケリグにより不思議な体験をすることになります。

妹の手術の日、母は、男の人が赤ちゃんを抱きダンスをしている夢を見ます。その後、スケリグがいなくなり、妹は無事退院することができたのです。

命の尊厳と生きることの喜びを見事に謳いあげた、幻想的な物語です。

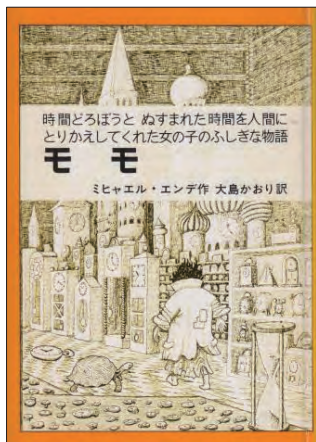
本書は、作者が初めて書いた児童小説で、出版されるや4日間で増刷がかかるとほどの大反響でした。英国の新聞・雑誌は「児童文学の分野に輝かしいデビューを飾った。」「この十年に児童書の世界に現れた、最も刺激的な才能。」と激賞しました。1998年のウィットブレッド賞の児童部門賞、カーネギー賞、2010年には国際アンデルセン賞も受賞しました。



## モ モ

ミヒャエル・エンデ 作・絵 大島 かおり 訳

岩波書店 1976年・岩波少年文庫 2005年《ドイツ 1973》 360p



昔むかし、円形劇場の廃墟に、年齢も素性も分からないモモという女の子がいつの間にか住みついていた。近所の人たちはモモを温かく見守ってくれました。モモには不思議な力があって、周りの人たちに生きる力と豊かな心を与えていました。相手の話をじっと聴くというだけのことなのですが…。

しかし、この心豊かな街に、灰色の男たちという時間泥棒が現れるようになりました。良い暮らしをしたいという欲望を持つ人に灰色の男たちは取りつき、良い暮らしをするためには、時間を倏約しなさい、というのです。

時間を倏約した結果、人々は追い立てられるようにせかせかと生活し、心のゆとりをなくし、無気力に陥っていきました。

おかしくなった世の中に気づいたモモの足元に、カメのカシオペアが現れ、時間をつかさどるマイスター・ホラの家につれていってくれました。そこは、時間の花が咲く壮麗な殿堂でした。

灰色の男たちとモモの闘いの末、人々には再び時間が戻ってきました。

『ジム・ボタンの機関車大旅行』(岩波書店)で1度目の、『モモ』で2度目のドイツ児童文学賞を受賞しました。

## はてしない物語

ミヒャエル・エンデ 作 上田 真而子 佐藤 真理子 訳 07ガ'イ'ク'アートリク'装画

岩波書店 1982年・岩波少年文庫 2003年《ドイツ 1979》 590p



バスチアンは背の低い小太りの少年です。2年前に母親が亡くなり、それ以来父親ともうまくいきません。昨年落第もしていて、学校に行けば友だちにいじめられます。何もかも嫌になってしまったバスチアンは登校途中「コリアンダー古書店」と書かれた店に入ってしまう、店主が読んでいた赤い表紙の本に魅入られ、店主が席を立ったすきにその本を盗んでしまいました。家にも帰れず、バスチアンは学校の物置に忍びこみ、この本を読み始めました。読んでいるうちにこの主人公はバスチアン自身であることに気がつきます。

物語の国(ファンタジーエン)ではアトレーユという少年がバスチアンの道案内をします。早くバスチアンにこの国に来てほしいと願っているのです。

ファンタジーエンに行ったバスチアンは、何でも望みのかなう魔法のアウリンを貰います。バスチアンは消えようとしているファンタジーエンを救うためにこのアウリンを使います。が、一つ望みがかなうとバスチアンの思い出が一つなくなります。バスチアンが良かれと思ってしていることは自分を満足させるだけであって、本当にファンタジーエンを救うことにはなっていないのです…。バスチアンは、悩み、闘います。そして…。

## 父への四つの質問

ホルスト・ブルガー 作 佐藤 真理子 訳 山下 一徳 カバー絵・カット  
偕成社 1982年《ドイツ 1976》 286p



父親の自慢話には辟易することが多いものですが、ぼくの父はそうでもありません。ぼくは父に、なぜヒトラーユーゲントの道を選んだのか、戦争についてどう考えているのか四つの質問をし、父は率直に答えてくれました。

第一の質問「ユダヤ人の問題はようになっていたの。どうして黙ってあんなことをさせてしまったの。」、第二の質問「若者たちは知らないうちに操られていて、学校やヒトラーユーゲントはどんな具合だったの。」、第三の質問「ヒトラーのために戦うため、なぜ年齢もいかにのに志願したの。」、第四の質問「ドイツ人は、最後の瞬間までナチのためになぜ戦ったの。」です。

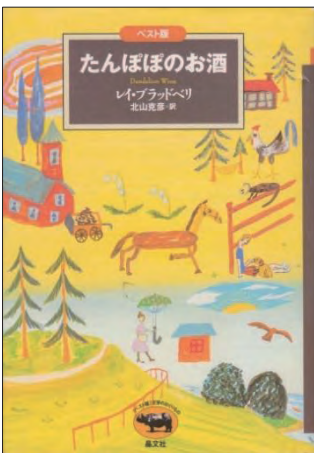
することなすこと民族と祖国のためという言葉信じこまされ、抵抗運動をする人も多かったのに、父は批判精神が足りなかったことを悔やみます。

真理は一つではないこと、理想のために闘ったこと、祖国を救うのは俺たちだと思ったこと、正義が正義でなくなる日が来ることなどを話してくれました。しっかり目を開いてみることに積極的に参加しなければいけないことも学びました。民主主義は皆で担う問題なのですから。

1979年ドイツ児童文学賞特別賞推薦作品となりました。

## たんぼぼのお酒

レイ・ブラッドベリ 著 北山 克彦 訳 荒井 良二 カバー絵  
晶文社 1997年《アメリカ 1957》 495p



1928年、12歳のダグラス・スポールディングの夏が始まりました。森の木々と戯れ、「生きているんだ」と実感し、家族や周りの人々を起こし、浮き浮きする夏の初めです。例年通り、たんぼぼのお酒造りが始まりました。

夏の半分は毎年同じことをしています。そこで、ダグラスは「慣例と儀式」「発見と啓示」と書いたノートを作りました。「慣例と儀式」には例年通り行われることを、「発見と啓示」には今年の夏に新しく得たものを書くのです。

町の中ではいろいろなことが起こります。「幸福マシーン」を作ろうとする人、グリーン・マシーンに乗った老夫人。ダグラスはフリーリー大佐のところでき話を聞き、ノートに書きとめます。多くの老人は若者に昔の誇りを傷つけられます。それは、1 個の人間であろうとするよりも過去にあったものごとくにこだわろうとする老人だからでしょう。そして、ダグラスは「孤独の人」(死)の恐怖を知ります。「2週間前にぼくは生きているのを知った。今はいつか死ななければならないのを知った。」と弟に話すのでした。

作者は12歳の時には玩具のタイプライターで物語を書き始めました。『華氏451度』(ハヤカワ文庫SF)は広く世間に知られ、SFの詩人と謳われています。

## 完訳 ファーブル昆虫記 1

アンリ・ファーブル 著 山田 吉彦・林 達夫 訳

岩波文庫 1989年(岩波文庫 1942)《フランス 1879~1910》406p



「(前略)我々に好奇心を唆り、知識欲にかりたてるあの人生の春の潮に満ち満ちていた。一同はあのことこのことを語り合いながら、小径を歩いてゆくと、道ばたに生えたくさにわとこやさんざしの繖房花の上では、もうきんはなむぐりが強い匂いに酔いしれていた。我々はレ・ザングルの砂土の高台に、聖たまこがねがもう姿をみせて、古代のエジプト人が地球の像とした糞の団子を転がしているかどうか見に行くところであった。」まるで文学作品です。これはファーブル昆虫記の冒頭部分で、有名な「フニコログシ」を描写したところです。手書きの7種類のコガネムシと仕事場の写真が掲載されています。

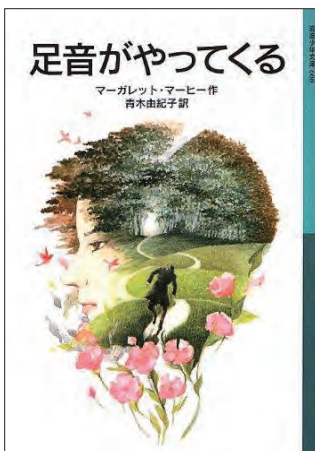
難解な昆虫記ではありません。向学心に燃え、知りたがり屋であった彼は、師範学校を出て教職についてもなお物理や数学の得業士、学士の学位を得たりしています。博物学者としてパストゥールと会ったり、ダーウィンから賛同の手紙を貰ったりもしています。

小学校低学年でも読める「ファーブル昆虫記」、小学校高学年以上の読者にも読みごたえのある「ファーブル昆虫記」も出ていますが、ファーブルの思いが伝わるのは、何と言ってもこの「完訳版」《全10巻》だと思われます。

## 足音がやってくる

マーガレット・マーヒー 作 青木 由紀子 訳 アラン・フッド カバー画

岩波少年文庫 2013年(岩波書店 1989)《ニュー・ラット 1982》236P



8歳のバーナビー(バーニー)に、何の前触れもなく、ごく普通の金曜日に幽霊が取りついてきました。幽霊はレースの襟のついた青いピロードの服を着た4つか5つの男の子です。「バーナビーが死んだ!ぼくはとってもさびしくなるよ。」としゃがれた声で話しかけます。目まいがし、頭の中に電流が走ったような感じになり、家まで駆け戻りました。姉2人が、バーナビー大叔父が亡くなったことを告げてくれました。バーナビーは死んだのは自分ではないことは分かったのですが、幽霊の足音は日増しに近づいてきます。下の姉のタバサにもその足音が聞こえるようになりました。

バーナビー大叔父の葬儀の時、バーニーの様子がおかしいことに気付いたスカラー家(バーニーの母親の実家)の人びとは、怯えました。

スカラー家には、代々魔法使いの子どもが現れるというのです。バーニーの祖父は男5人の兄弟で、末っ子のコール大叔父がその魔法使いだったというのです。コールは小さい時に家出をして行方不明のままになっています…。

この作品で、1982年にカーネギー賞を、2006年に国際アンデルセン賞を受賞しました。

## 影との戦い ゲド戦記 1

アーシュラ・K・ル＝グウィン 作 清水 真砂子 訳 ルース・ロビンズ 画  
岩波書店 1976年・岩波少年文庫 2009年《アメリカ 1968》 278p



アースシーの<sup>へんま</sup>辺境の島ゴント島でゲド(幼名ハイタカ)は生まれました。ゲドが生まれた直後に母親は亡くなり、初級の魔法使いである伯母に育てられました。カルガドの兵士が攻めて来た時、ゲドは魔法で追い払いました。

ゲドの力を心配した大魔法使いオジオンはゲドを引き取り育てました。が、ゲドは傲慢さの故、おだてに乗り暗黒の影を呼び出してしまったのです。

そこで、オジオンはゲドをローク島にある魔法の学院へ送り込みました。ゲドは優秀な成績を収めました。が、気に入らないヒスイと魔法で勝負をしてしまい、死人の魂を呼び出してしまったのです。瀕死の重傷を負ったゲドを大賢人ネマールが助けてくれましたが、そのためネマールは死んでしまいます。

「高慢と憎しみの心で呼び出したものはそなた自身の無知と傲慢の影なのだ。」と教えられたゲドは、その影をどこまでも追いかけることにしました。

影は姿をはっきりと現わし、ゲドは自分に向かって伸びてきた己の影を抱きしめました。光と影はひとつになったのです。

全き姿になったゲドはアースシーの<sup>へんま</sup>均衡を保つために活躍します。

『こわれた腕輪』『さいはての島へ』『帰還』『アースシーの風』(岩波書店)へと続きます。

## 旅の仲間 指輪物語 1

J・R・R・トールキン 作 瀬田貞二・田中明子 訳 アソ・リー 装画  
評論社文庫 1992年・評論社 1992年《イギリス 1954～55》 252p



ビルボ・バギンズが拾った指輪は、<sup>冥府</sup>冥府の王サウロンが自らの<sup>悪</sup>悪しき力のすべてを注ぎ込んだ悪魔のような指輪でした。指輪を受け継いだフロド・バギンズは、指輪が作られた魔の山の火の中へ、指輪を捨てるために旅立ちます。

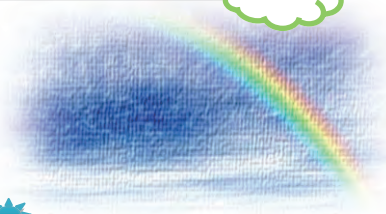
ホビット族のサム、ピピン、メリー、ドワーフ族のギムリ、エルフ族のレゴラス、人間のアラゴルン、ボロミアと魔法使いのガンダルフが旅の仲間となりました。しかし、指輪の悪夢はついてまわります。ボロミアが指輪を奪い取ろうとすることもありました。昔、昔、友人を殺してまで指輪を奪い取ったホビット族の仲間のスミアゴルは、妖怪の姿に変容してしまったにもかかわらず、まだ指輪が欲しくてフロドのあとを追いかけます。白の魔法使いであったサルマンも、指輪の力に負けて冥王サウロンについてしまいます。

指輪が冥王サウロンの手に渡ったらこの世は破滅の道を進むことになりませう。指輪が手に入れば、己の欲望のままに世界を操ることができるのです。9人の旅の仲間たちは厳しい場面に直面しながらも…。

『旅の仲間』『二つの塔』『王の帰還』(評論社)の三部作です。現在でも世界最高のファンタジーとして評価されています。映画化もされ、評判になりました。



# そのほかにおすすめしたい読みもの



## ツバメ号とアマゾン号

(アーサー・ランサム全集 全12巻)

アーサー・ランサム

岩波書店

## ロビン・フッドの ゆかいな冒険

パイル・ハワード

岩波書店

## ムギと王さま

エリナー・ファージョン

岩波書店

## ココロ屋

梨屋 アリエ 文研出版

## きつねものがたり

ヨセフ・ラダ 福音館書店

## おはようどうわ

東 君平 サンリオ

## ニルスのふしぎな旅

セルマ・ラーゲルレーブ

福音館書店

## よい子への道

おかべりか 福音館書店

## 少年のブルース

那須 正幹 偕成社

## 馬ぬすびと

平塚 武二

福音館書店

## クレヨン王国の十二か月

福永 令三 講談社

## 花さき山

斎藤 隆介(滝平 二郎 絵)

岩崎書店

## ながいながい

### ペンギンの話

いぬいとみこ 理論社

## ハリー・ポッターと賢者の石

J.K.ローリング 静山社

## あめあめふれふれ

### もつとふれ

シャーリー・モーガン のら書房

## ホメーロスの オデュッセイア物語

ピカード 岩波書店

## 君たちはどう生きるか

吉野 源三郎

ポプラ社

## ドン・キホーテ

セルバンテス

岩波少年文庫

## バッテリー

あさの あつこ 角川文庫

## ジャングル・ブック

ラディヤード・キップリング

福音館書店

## 太陽の子

灰谷 健次郎 理論社

## 古事記物語

福永 武彦 岩波少年文庫

## おばけ桃の冒険

ロアルド・ダール

評論社

## まぼろしの小さい犬

フィリップ・ピアス

岩波書店

## クローディアの秘密

E.L.カニグズバーグ

岩波少年文庫

## ポケットのなかの プレゼント

柳澤 恵美 ラ・テール出版